



年報

モンゴル・日本人材開発センター

第17号
2025年



モンゴル・日本人材開発センター



年報

(2024.01.01-2024.12.31)

2024 年



設立及び発展の経緯

モンゴル・日本人材開発センター(MOJC)は（以下モンゴル・日本センター）、モンゴルの市場経済化促進に貢献する人材の育成と、モンゴルと日本の相互理解促進を目的として、国際協力機構(JICA)と教育省、モンゴル国立大学の協力により、2002年に開設しました。現在、ビジネス人材の育成、日本語教育、相互理解促進をメインに活動を展開し、2012年より、日本語教育及び相互理解促進事業については、新たに国際交流基金(JF)が協力を行っています。さらに、これまでに築いたネットワークを活かし、日本・モンゴル間のビジネス交流の橋渡しにも力を入れています。

2002年1月22日	JICA 技術協力プロジェクト第1フェーズ開始
2002年3月14日	日本政府はプロジェクトの開始にあわせ、無償資金協力により、センターの活動に必要な施設を建設(総工費 4.43 億円、総床面積 1,520 m ²)
2002年6月21日	秋篠宮殿下・妃殿下ご臨席の下、センター開所式挙行
2007年1月22日	JICA 技術協力プロジェクト第2フェーズ開始
2007年7月16日	皇太子殿下ご臨席の下、センター設立5周年記念式典挙行
2009年7月3日	延べ入館者 100 万人達成
2012年1月22日	JICA 技術協力・ビジネス人材育成プロジェクト開始
2012年4月1日	独立行政法人国際交流基金(JF)によるJF講座開始
2012年4月13日	モンゴル国立大学独立採算ユニット化
2012年6月21日	設立10周年記念式典を挙行
2015年4月22日	JICA 技術協力・モンゴル日本人材開発センタービジネス人材育成・交流拠点機能強化プロジェクト開始
2016年4月1日	延べ入館者 200 万人を達成
2017年6月14日	金子晴彦先生ご寄贈陶芸作品「ハッピーブルーウォール」除幕式実施、展示開始
2017年6月21日	設立15周年記念式典を挙行
2020年4月22日	JICA 技術協力・モンゴル日本人材開発センタービジネス人材育成・交流拠点機能強化プロジェクト 2 フェーズ 開始
2020年10月19日	延べ入館者 250 万人達成
2022年6月21日	設立20周年記念式典挙行



ビジョン

- モンゴルの未来を担う人材の育成を通じ、モンゴル・日本両国の架け橋となることを目指します。

ミッション

- 利用者のニーズに沿ったサービスの企画・実施を通じ、モンゴル・日本両国の社会・経済の発展に貢献します

スローガン

- モンゴルの未来をここで育てよう！

私たちが提供できる価値

- ✓ モンゴルにある「日本の風景」
- ✓ 日本的なサービス・日本関連情報の提供
- ✓ 日本で培われた知識経験の提供
- ✓ 優秀な人材、モンゴル人・日本人スタッフによるチームワーク
- ✓ モンゴル国立大学をはじめとする、多くの機関・団体との協力関係
- ✓ JICA、JF を初めとする、日本の関係機関による強固で継続的な支援体制



目次

モンゴル・日本人材開発センター所長 Ts.ダワードルジ.....	8
----------------------------------	---

ご挨拶

モンゴル駐箚日本国特命全権大使 井川原 賢.....	9
モンゴル国立大学 学長 B.オチルホヤグ.....	11
独立行政法人国際協力機構(JICA)モンゴル事務所長 宮城兼輔.....	12
独立行政法人国際交流基金 (JF) 日本語第1 事業部長 四ツ谷知昭	13
モンゴル・日本人材開発センター チーフアドバイザー (JICA 専門家) 井崎宏.....	15

I. ビジネスコース課

1. 2024 年ビジネスコース実施報告.....	18
ビジネス人材育成コース実施状況.....	18
1) 集団研修：ビジネスコース.....	18
2) 個別研修：企業内研修、モデル企業課題解決型プログラム	21
3) 本邦研修.....	23
2. コラム.....	38
1) 西モンゴルの女性組合のカンファレンスにて登壇.....	38
2) 現地講師向けの「リーダーシップとチームビルディングによる価値創造」コースを 初めて実施.....	39
3) エルデネット市にて「人事管理」コースを実施.....	40

II. ビジネス交流課

1. 2024 年ビジネス交流促進活動全般.....	42
2. コラム.....	45
1) モンゴル国の「ものづくり技術の底上げ」に関わるテーマとして訪日研修.....	45
2) ビジネス交流課の出発の現在.....	45

III. 日本語課

1. 2024 年日本語課全般.....	51
1) 日本語講座の概要.....	51
2) 共催事業について（主催、後援、協力を含む）	52
2. コラム.....	65
1) 子ども向け日本語講座（8～10 歳）	65



2) 「PPT を中心とした日本語教材の作り方」実践講座.....	66
3) 「中級レベル読解講座－選択式問題編」	67
4) 「小型&中型日本文化体験」特別教室.....	68
受託事業及び受託コースについて.....	69
1) 特定技能関連業務.....	69
2) 「2024“新潟賞”」日本語スピーチコンテスト	70
3) 「モンゴル JDS 来日準備日本語講座」	70
4) 「京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座 2024」	71
5) 「日本語観光ガイド上級コース」	71
3. 受講生の声.....	73
IV. 図書交流課	
1. 2024 年図書交流課活動全般.....	82
1) 図書室運営.....	82
2) 「定期映画会」日本映画上映.....	83
3) 市民講座.....	83
4) 日本留学フェア-2024.....	83
5) 受託事業.....	83
6) タイピングコース.....	83
2. コラム.....	89
1) 「春の留学フェア」初開催.....	89
2) 第 15 回日本留学フェア開催.....	90
3) 「そこにあるもの」セラミック作品展示会.....	92
4) 第 84 回市民講座「日本におけるアニメーション産業の発展」	93
5) JF「専門日本語研修（文化・学術専門家）2 カ月コース」参加.....	95
6) アニメ文化紹介イベント	97
V. 総務課	
1. 2024 年総務課活動全般.....	99
2. コラム.....	102
1) 翻訳サービス開始.....	102
2) 初級モンゴル語講座.....	102



VI. チーム活動

1. 2024 年度の活動全般.....	104
1) 広報チーム.....	104
2) 5S 改善チーム.....	105
3) 健康・スポーツチーム.....	107



序文



2024 年は私たちの事業が飛躍した年となりました。

年間に実施した事業を総括するのが私たちの伝統であります。2024 年も事業が次々と達成でき、計画が無事に完了できたことをご報告できることを嬉しく思います。2024 年、弊センターは 42 種 294 事業を計画していた中、9 事業が中止となり、新たに 10 事業を追加しました。したがって、計画した業務の達成率は 100.3%に達しました。

センターの組織体制に変更はなく、2024 年は正職員 31 名、契約職員 2 名、アルバイト 12 名、非常勤講師 5 名、現地講師 8 名の合計 63 名が勤務しました。センターの平均給与は 220 万トゥグルグに達し、昨年より 8%増加しました。この額はモンゴルの平均給与より高い水準にあります。しかしながら、モンゴルの平均給与水準に達しているとはいえ、実質所得で見ると以前の水準にとどまったままです。

5 名の日本人専門家が長期派遣されています。

2024 年度収支実績は、収入計画を 6.4%上回り、支出計画を 7.8%削減することができました。国際協力機構や国際交流基金の支援も変わらず続いています。年間予算の 21%がこの 2 機関によって支えられております。また、2024 年の光熱費、電気代、水道代などの固定費の大部分はモンゴル国教育省が負担しましたがセンターにとって大きな支えとなりました。センターの年間予算の 3%に相当する 4910 万トゥグルグを教育省が支援しました。

2024 年に実施した事業の詳細はこの年報でご覧いただけます。今年の年報は、昨年同様、電子形式で発行しています。

平素より私たちの活動のご支援し、ご協力をしてくださる日本とモンゴルに関わりのある全ての団体、個人の皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご支援、ご協力のおかげで、弊センターの活動は常に前進し、成功を収めています。

今後も、センターは知恵と知識を総動員して事業遂行に懸命に努め、弊センターの信望を高めていくことを誓います。

モンゴル・日本人材開発センター所長
Ts. ダワードルジ



ご挨拶



2024年は、両国の人の往来や様々な交流が盛んに行われた年となりました。両国の関係者のこれまでの多岐にわたるご愛顧とご支援に、日本政府を代表して深く感謝申し上げます。

2023 年 12 月に自分がモンゴル国駐劄日本国特命全権大使として着任してからあっという間に 1 年以上が過ぎました。私が初めてモンゴルに来たのは 1980 年代後半で、その後も業務で何度もモンゴルを訪れていたのですが、モンゴルは大好きな国の一つではありましたが、今回のようにモンゴルに住まいを構えるのは初めてでした。この 1 年間、厳しい寒さ、春の嵐を越えて、日が長くなり、一気に草原の緑が濃くなるモンゴルの自然のダイナミックさをここにお住まいの皆さんと一緒に体感できたことでモンゴルに勤務できた幸運を実感しました。

両国関係は、政治、経済、社会、文化、スポーツ等幅広い分野で着実に進展しています。2022 年に発表された「平和と繁栄のための特別な戦略的パートナーシップ」では、日本とモンゴルの二国間関係を今後更に強化するべく、政治、安全保障、経済等における協力に加え、両国関係の全ての基盤となるのは「人」であることを改めて確認し、人材育成協力を継続していくことに言及しています。モンゴル・日本人材開発センターでは、設立以降、ビジネス・コースや日本語教育を通じて多くの人材を育成してきており、今後についてもモンゴルにおける両国間の人材育成協力の中心的な拠点として、「特別な戦略的パートナーシップ」の具現化に貢献いただけるものと期待しています。

昨年は日本モンゴル文化交流取極締結 50 周年という節目の年でした。同協定により、研究者、芸術家間の交流、文化行事の開催、留学生の相互受け入れ等における政府間の協力が合意され、二国間の多層的な人的交流・文化交流が開始されました。これを受けて協定締結翌年の 1975 年にモンゴル国立大学に日本語学科が設立されたことから、本年はモンゴルにおける日本語教育開始 50 周年と位置づけられています。文化イベントや学術シンポジウム、展覧会、日本語教育等、多くの先人のたゆまぬ努力の上に築かれた文化・人的交流の糧を次の世代に引き継ぐためにも、日本センターの貢献は極めて重要であると考えます。

現在日本センターは、設立 20 年以上となる経験と新たな発想を織り交ぜながら、両国の交流やビジネス促進に必要な事業を着実に実施しており、両国関係が強化されていく中で、



益々その役割は重要になってまいります。より一層の日本センターの発展と活躍、そして日本・モンゴル関係のさらなる発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

モンゴル駐劄日本国特命全権大使
井川原 賢



ご挨拶



モンゴル国立大学のモンゴル・日本人材開発センターはモンゴル・日本両国の交流をさらに促進し、社会経済の発展に貢献し、ビジネス交流を強化し、人材育成の拠点として、キャリア形式を支援するという目的を十分に遂行し、両国の架け橋となる新たな道筋と協力の強い絆を作って参りました。

モンゴル・日本人材開発センターの活動を常に支えて頂いた在モンゴル日本国大使館、JICA、国際交流基金、モンゴル国教育省、大蔵省、家族・労働福祉省、その他の関係機関及び関係者の皆様に対し、モンゴル国立大学職員を代表し、感謝を申し上げます。

「日本留学フェア」は日本センター主催、モンゴル国立大学共催で毎年秋に開催してまいりました。2024 年度は秋に加え、4 月にもオンラインで開催しました。これは、日本センターの主要な目的を達成する上での重要な前進です。

2025 年の春、4 月から「モンゴル・日本人材開発センター」プロジェクトの新たなフェーズに入りました。これを機に、両国の社会経済、ビジネス交流活動が新たな発展段階に達することを期待しております。

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

モンゴル国立大学 学長
B.オチルホヤグ



ご挨拶



モンゴル・日本人材開発センター（以下、日本センター）プロジェクトは、新たなフェーズを迎えてから約 5 年が経過しました。この期間中、新型コロナの拡大や世界各地での紛争など、世界情勢・経済・社会に大きな影響を与える出来事が発生し、本プロジェクトが対象とする民間セクター分野にも大きな影響がありましたが、日本センターの皆さまのご尽力により、様々な取り組みが実施されてきたことに対して、心から敬意を表するとともに、お礼申し上げます。

モンゴルでは、7 月に新政権が発足し、8 月に国会で承認された新政府行動計画（2024-2028 年）では、一人当たりの GDP を 8,000～10,000 ドルに引き上げることが目標として掲げられましたが、モンゴルの更なる経済成長、持続的な発展に向けて民間セクターの発展は極めて重要です。また、11 月には、ウランバートルでは約 7 年ぶりの開催となる第 11 回日本・モンゴル官民合同協議会が開催されました。同協議会の中でも、モンゴルと日本の民間企業のビジネス交流が一層促進されることが期待されており、そうした中で、日本センターの役割の重要性はさらに増しています。

2025 年 3 月には、日本センターは、JICA、モンゴル政府、モンゴル商工会議所、日本帰国留学生の会（JUGAMO）等と協力し、アジア最大級の食品・飲料展示会の FOOD EX JAPAN2025 にて、昨年に続き、モンゴルブース - Mongolian Pavilion - を出展し、食品業界のモンゴルの民間企業 7 社に対して、展示会出展や商談、マーケティング、輸出業務に係る技術支援を行う予定です。今後も、FOOD EX JAPAN をはじめとした、展示会への出展支援などを通じてモンゴルと日本の民間企業のビジネス交流が促進されることを期待いたします。

最後に、改めてこれまで日本センター及び JICA の協力活動を支えてきていただいた、すべての皆さまに感謝申し上げます。現行プロジェクトは、残り 3 ヶ月弱となりますが、次期フェーズに向けて JICA は、日本センターが今後も日モ両国間協力の架け橋として、ビジネス人材育成や両国のビジネス交流を促進する機能を一層強



化できるよう、これからも最大限取り組んで参ります。引き続き皆さまのご支援を
頂戴いたしたく、よろしくお願い申し上げます。

JICA モンゴル事務所 所長
宮城兼輔



ご挨拶



モンゴル・日本人材開発センター（以下、モンゴル・日本センター）は、2002 年の開設以来、モンゴルの経済発展やモンゴルと日本の相互理解促進に貢献する多くの人材を輩出してきました。また、日本語教育の普及につきましても、たゆまず尽力してこられました。この場をお借りして、ダワードルジ所長をはじめとする関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

私ども国際交流基金（以下、JF）は、モンゴル・日本センターの 4 つの柱であるビジネス人材育成、日本語教育、相互理解促進、モンゴル人材キャリア支援のうち、特に日本語教育と相互理解促進について、ともに歩んで参りました。2002 年から現在まで日本語専門家を派遣し、また 2012 年 4 月からは、「JF ランゲージセンター」として、モンゴル・日本センターと共同で「JF 日本語講座」を開始しました。JF 日本語講座では、日本語で何がどれだけできるかという「課題遂行能力」や相手の文化を理解し尊重する「異文化理解能力」の育成を重視した「JF 日本語教育スタンダード」に準拠した講座を開講しています。また、同講座では JF 開発教材『まるごと日本のことばと文化』を使用し、入門レベルから中級レベルまでのコースが開講されてきました。さらに、同センターでは、より上級者向けのコースや、夏季には子供向けの日本語講座など、鋭意、モンゴルにおける日本語学習者のニーズや日本語教育の状況に応じた様々な新たなコースの提供にも取り組んでいます。

特に 2024 年度は、高まる需要を受けて新たに「日本語ガイド上級コース」や「JICA インターンシッププログラム参加希望者対象の事前日本語研修」を実施した他近年は就労現場で必要な日本語に対するニーズの高まりに伴い仕事で役立つ実践日本語講座を実施する等、その活動の幅を大きく広げています。また、上記のような対学習者支援だけでなく、モンゴルにおける日本語教育のさらなる普及を目指し、日本語専門家とともに初中等教育機関の日本語教師を対象とした教授法研修の実施や、2019 年に創設された在留資格「特定技能」制度で来日して日本で生活する方々のために JF が開発した新教材『いんどり 生活の日本語』についての日本語教師向けの教授法セミナーを実施する等、日本語教師の育成にも取り組んでいます。



なお、2024 年 9 月 22 日の日・モンゴル首脳会談を受け、JF は 2025 年度よりモンゴルに日本語パートナーズ（以下、NP）を派遣することを決定しました。今後の派遣に向けて、日本センターをはじめとした関係機関のお力添えをいただきながら、着実に準備を進めてまいります。

JF は、今後もモンゴル・日本センターとともに、モンゴルの皆さんが日本語や日本文化に出会い、学ぶ機会を提供していく所存です。そして、モンゴル・日本センターが日本語教育や日本文化発信の拠点として、ますます発展され、モンゴルと日本の架け橋となる人材が一人でも多く輩出されることを心から祈念いたします。

独立行政法人国際交流基金 日本語第 1 事業部長
四ツ谷知昭



ご挨拶



2024 年度は、現在実施中の JICA モンゴル・日本人材開発センタープロジェクトの 5 年間の協力期間の最終年度にあたります。プロジェクト開始当初はコロナ禍の影響もあり事業進捗が滞る時期もありましたが、その後回復し、現在はプロジェクトは計画通りに推移し、プロジェクトの目標・指標をほぼ達成できる見込みです。

2024 年は 6 月にモンゴルでは総選挙が行われ政治的には新しい動きがありました。一方、モンゴルの社会、経済は着実に進化を続け、その進展ぶりには目を見張るところがあります。これらの動きに対応すべく当センターでは運営体制の強化に努め、組織、人事、財務などの面で業務改善を進めてきました。更に将来の自立化促進と運営能力向上に向け、全職員が参加し 2025 年から 2029 年までの戦略計画が策定されました。

JICA プロジェクトとしては、これまでの 5 年間でビジネス人材の育成、ビジネス交流、モンゴル人材キャリア支援、そして当センター組織・運営の強化を推進してきました。特に現地講師化の推進、収益の拡大・安定化について力点を置いてきましたが、渡日前研修等の新しい業務も開始しました。また日本の大学に留学していた 2 名の職員が博士課程、修士課程を修了し 10 月から職場に復帰しました。このように、業務の多様化、職員の能力向上等を通じながら更なる組織の強化に取り組んでいます。

同時に、「日本センター2.0 構想」の下、日本・モンゴル双方の様々な機関（政府、自治体、大学、企業等）との連携のプラットフォームとしての機能を維持、強化し、モンゴルから日本の大学への留学生、モンゴル人材の日本企業への就職、両国のビジネスマッチングなどの支援に日々取り組んでいるところです。そのため、日本国内の JICA 国内機関、中央アジアの日本センターとの連携も継続しています。

前述の通り、2025 年 4 月で現在のプロジェクトは完了しますが、その後直ちに新しい JICA プロジェクトが 5 年間の予定で協力を開始する予定で、外国投資、スター



トアップなど新しい支援項目が加わることになっています。このように、モンゴル・日本人材開発センターは新しいステージに入ることになりますが、皆様に信頼され、期待されるセンターを目指していきますので引き続きよろしくお願いいたします。

モンゴル・日本人材開発センター チーフアドバイザー (JICA 専門家)
伊崎 宏



I. ビジネスコース課





I. 2024 年ビジネスコース実施報告

モンゴル・日本人材開発センター（以下、「モンゴル・日本センター」）ビジネス課では、JICA（国際協力機構）の支援を受け、モンゴルのビジネス人材育成のために必要な事業を実施している。

2024 年には、通常コースの経営者クラス 6 科目、管理職クラス 4 科目をそれぞれ 2 回ずつ合計 20 回実施した。基礎コースは 10 科目をそれぞれ 10 回ずつ合計 10 回、さらにエルデネット市で 1 回実施した。専門コースはウランバートル市で 10 科目をそれぞれ 1 回ずつ実施し、企業内研修は 35 社に 40 回実施した。さらに、ザブハン県にて実施されたカンファレンスに当センターの現地講師が登壇した。初の試みとして、現地講師が管理職コースを担当した。

2024 年はビジネスコースに合計 3024 名が参加した。モンゴル・日本センターのビジネスコースの特徴は、経験豊かな日本人・モンゴル人講師が「実際のビジネスに役立つ知識」を教えることであり、受講生の 95%以上が研修内容を高く評価し、実務に生かして成果を上げている。

～ ビジネス人材育成コース実施状況～

1. 集団研修：ビジネスコース

①通常コース（中小企業経営診断・指導実践講座）はモンゴル・日本センターの代表的コースであり、年に 2 回（秋期コースと冬期コース）行なっている。本コースの目的は経営の基本を学び、その能力を向上させることによって、モンゴルの中小企業育成ひいてはモンゴルの経済発展に貢献することである。

通常コースは、経営者クラスと管理職クラスに分かれて経営の基本となる 4 科目（経営戦略、マーケティング、財務管理及び人材管理）の講義を実施している。経営者クラスには事前講義として「日本的経営」と「コンプライアンス」という二つのコースを追加で実施している。



今年の通常コースは春季と秋季の 2 回、全て対面で実施した。通常クラスの全 4 クラスには計 130 社の合計 138 名の企業経営者及び管理職が受講された。



写真1. 通常コース経営者クラス「経営戦略」
コースの様子



写真2. 通常コース 管理職クラス 講義の様子

講義の進め方は例年通りに理論と実践の両面で行われた。受講生は各自の企業の事例や直面する課題について活発的な議論を交わし、講師から学ぶだけでなく、受講生同士で学びあう環境が整ったコースだったといえる。さらに、受講生のレベルが年々著しく上がってきていると日本人講師からコメントが上がっていた。

今年度から管理職クラスの「経営戦略」、「人事管理」コースを現地講師が担当した。現地講師が講義を担当することのメリットは、通訳の時間を省くことができるため、現場で様々な問題に直面する管理職にとって非常に深く広い内容の知識を学ぶことが可能になることである。

モンゴル・日本センターは通常コースのほか、センター内で受講者のニーズに沿った専門コースや基礎コースを実施している。また、センター外で企業内研修とモデル企業課題解決プログラムなど様々なビジネスコースを実施している。

②より高度なビジネスの専門知識を学ぶ専門コースについては、「エクセルを使ったビジネス分析」、「ビジネスプラン」2回、「KPI」、「Data driven marketing」2回、「人事管理」、「経営シミュレーション」、「店舗管理」、「Global Value Chain」、「生産管理」、「マーケティング」などのコースに加え新しく、「リーダーシップ」コースを完全対面で実施し、合計 359 名が参加した。今年は初めて現地講師が「店舗管理」専門コースを実施した。また、「リーダーシップとチームビルディングによる価値創造」というテーマの研修には、現地講師及びモンゴル国立大学、農業大学の教師が参加し、受講者から高い評価を得た。



写真3. エクセルを使ったビジネス分析専門コースの様子



写真4. 「KPI」専門コースの様子

③初心者向けの基礎コースについては、2016年から実施しており、2017年から土曜日に行うようになり、より多くの人々が参加できるようになり、休日にマネジメントの勉強が効果的にできるようになった。

今年度は、基礎コースをより効果的にすることを目的として、完全対面で以下のテーマで実施した。「マーケティング」、「人事管理」、「店舗管理」、「5S 運動」、「財務管理」、「生産管理」、「プロジェクト・マネジメント」、「日本の経営」、「経営戦略」などのコースを着実に実施した。さらに、地方の参加者向けのコースとしてエルデネット市にて「人事管理」コースを実施したのは今年の新たな試みの一つだった。



写真5. 「人事管理」基礎コースの様子



写真6. 「5s 活動」基礎コースの様子

③個別研修：企業内研修、モデル企業課題解決プログラム

ビジネス環境の変化と競争の激化を受け、多くのモンゴル企業において経営戦略に基づく企業全体の強化、全従業員の知識・能力向上を図る動きが目立ってきている。このため、会社全体で積極的に研修に取り組み、社内で統一した知識を得たいとの希望が増加している。このようなニーズに応えるため、モンゴル・日本センタ



一では企業内研修とモデル企業課題解決プログラムを実施し、モンゴル企業の経営合理化と競争力強化に力を入れている。

企業内研修では、JICA の専門家と現地講師が会社の依頼により、企業現場の課題を解決するために研修を実施している。2024 年には 35 社にて 40 回の研修を実施し、計 1235 名が参加した。一例として、Khuns complex 社の経営陣向けに経営戦略策定の合計 16 時間の研修を当センターの現地



写真7. Enoteca LLC における
「マーケティング」研修の様子



写真8. Bota 社における研修

講義及び意見交換を行いながら講義を行った。

講師の N.Batdelger 氏が指導した。さらに、西モンゴルの女性組合の依頼を受け、カンファレンスに参加している合計 500 名の女性向けに現地講師の D.Dashmaa が「人事管理」、N.Batdelger が「経営戦略」について

モデル企業課題解決プログラムに関しては引き続き 2022 年～2023 年度の参加企業 2 社、新規で 1 社が追加され、合計 3 社の参加となっており、各企業の直面する課題を解決すべく研修やコンサルティングを実施している。

同プログラムに参加する企業向けに共通して全社レベルの戦略の策定、それに基づいた各部門の戦略、さらに人材開発、その中で中間管理職の研修及び人材開発というテーマで研修を行った。このような内容の研修は現在のモンゴルの企業のニーズに合っているのではないかと考えられる。



写真9. Caffe Bane 社にて「人事管理」研修の様子



本邦研修

2024 年 10 月に日本の北九州市において 本邦研修を実施し、通常コース修了生 15 名、モデル企業課題解決プログラム終了企業 3 社の代表者、現地講師 2 名、モンゴル・日本センターの職員 2 名、計 22 名が参加した。

本研修は、通常コースで学習した内容を日本の現場でより深く学び、帰国後に自社の経営改善に役立てることを目的として、2003 年から実施している。



写真10. 長崎テレビ局の生放送番組にて

の発展に大きく貢献することが期待されている。

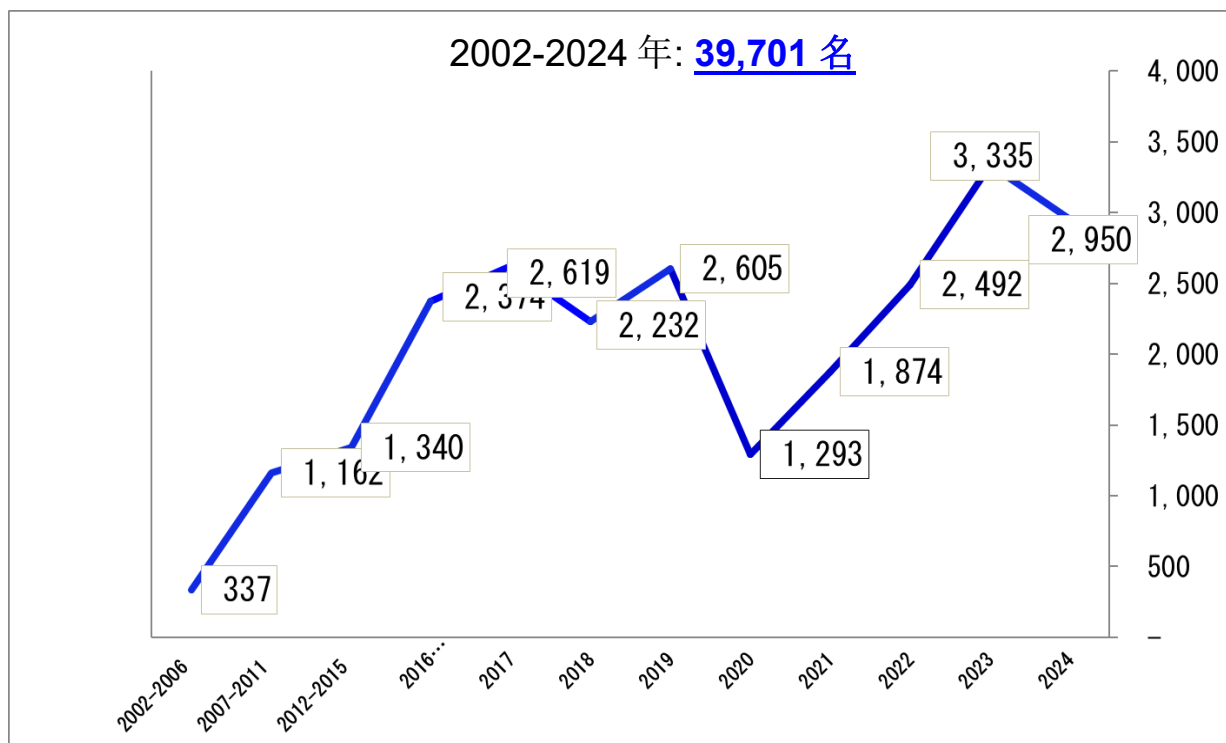
日本の企業の実態に直接触れることを通じて、各参加者はどのレベルを目指すべきかということについて、日本の事例を自らの目で見えて感じ、経験から学ぶことで、企業の効率的な組織運営や意思決定に影響を与えていると考えている。それによってビジネス研修の成果が真の意味で実現され、最終的にモンゴルの中小企業

研修期間中、コースリーダーとして関西大学の後藤健太教授が指導したことによって理論と実践的内容を含めた研修になった。SunAqua TOTO 株式会社、長崎放送株式会社、北九州市エコタウンセンターなど 12 社を訪問した。また、本研修は現地講師育成も目的としており 2 名の講師が参加した。現地講師が企業訪問後に見学したこと、学んだことに関する振り返りを行い、通常コース修了生と現地講師がお互いに学びあった効果的な研修となった。



ビジネス人材育成事業の数値指標

グラフ 1. 2002-2024 年のビジネス育成事業参加者数



グラフ 2. 2018-2024 年ビジネスコース質的指標

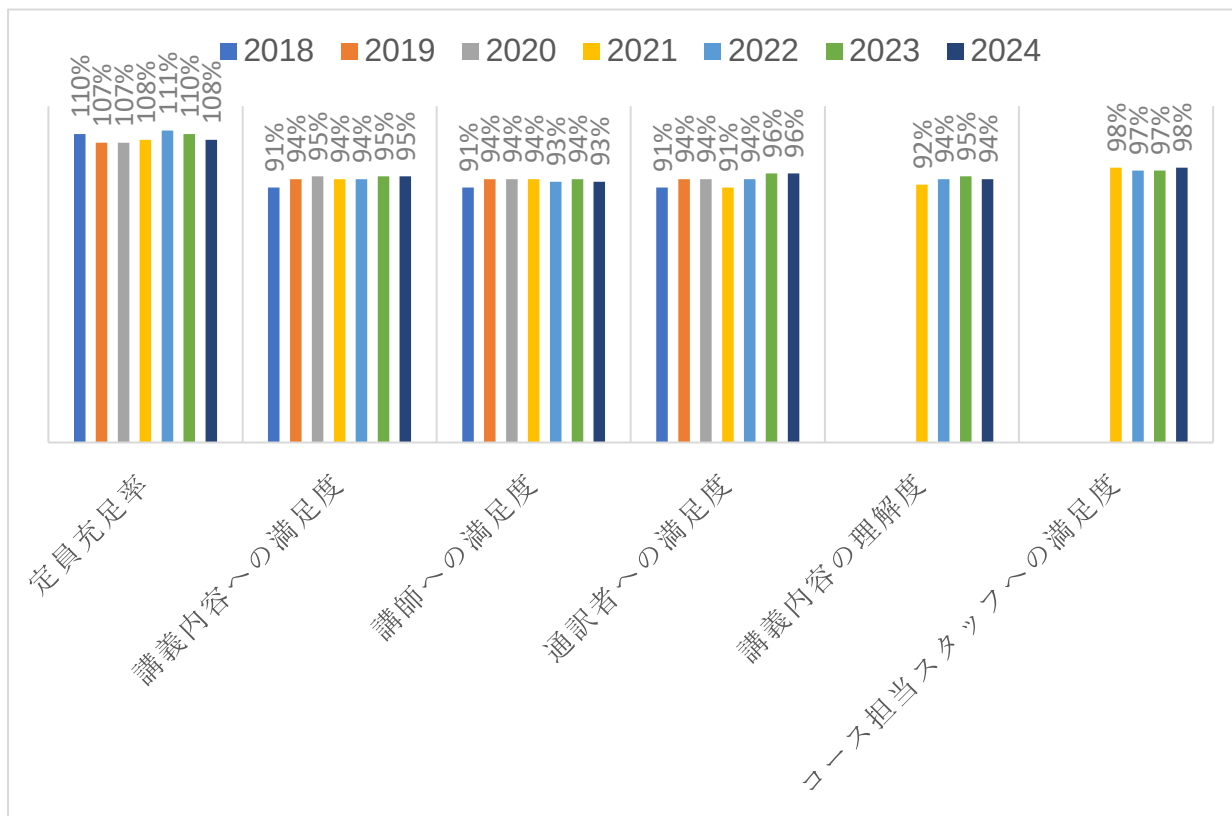




表-1: 通常コース 経営者クラス24期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	日本的経営	2024.02.26-27		・ 事業環境の変化 - VUCAの時代、SDGsの世界的取組 - 日本の経営の特色 ・ 経営者の役割、経営理念 ・ 顧客志向 組織文化とリーダーシップ ・ 事業戦略、人材育成	出口智	41
2	コンプライアンス	2024.02.29-03.01		・ なぜコーポレート・ガバナンスが重要なのか？ ・ コンプライアンスとコーポレート・ガバナンスの最近の動向 ・ コーポレート・ガバナンスの強化・改善方法	藤本和久	
3	経営戦略	2024.04.08-13		・ 企業上位目標とビジネス環境分析 ・ BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・ 経営戦略とリンクした事業戦略 ・ 経営戦略とKPIベースの組織業績管理 ・ 中小企業向け経営戦略と事例	河口真一郎	
4	人事管理	2024.04.08-13		・ 人事に関わる問題意識 - 人事の課題 ・ 経営戦略と人事戦略 - 組織能力の分析 ・ 出口管理 - 離職とリテンション ・ 人材像の明確化と組織デザイン ・ 採用 - 採用戦略 - 採用広告 ・ 能力開発、組織開発 ・ 人事基盤制度	土橋隼人	
5	マーケティング	2024.04.29-05.04		・ マーケティングとブランディング ・ マーケティングプロセスの全体像 ・ 市場調査 ・ STP戦略（Marketing戦略の中心となるSegmentation, Targeting, Positioning） ・ Marketing Mix (4P) ・ Digital Marketing（進化するInternetを使った販売、モバイルを使った新ビジネスの台頭） ・ Customer Journey Map ・ インバウンド・コンテンツマーケティング ・ システム・データベース	小木曾尚史	



6	財務管理	2024.06.03-08	・財務諸表と財務分析 ・財務分析方法 ・財務諸表の不正箇所の見つけ方 ・管理会計 ・経営改善のための財務分析 ・事業計画の策定とカンパニーロードマップ	竹口義弘	
---	------	---------------	---	------	--

表-2: 通常コース 管理職 クラス 24期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	経営戦略	2024.03.25-29	中小企業 中間管理職	・企業上位目標とビジネス環境分析(SWOT)、企業の持続的な発展の要素 ・BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、 ・ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・KPIベースの組織業績管理 ・経営戦略とリンクした事業戦略	N.Batdelger	36
2	人事管理	2024.04.22-26		・自社の人事課題の明確化 ・人事管理の変更について ・人事管理とは ・企業文化と人事管理の関連性 ・人事計画 ・人事採用 ・労使関係の基本(労働法の概要)、労働安全衛生 ・業績管理 ・給与、報酬、福利厚生 ・人材開発 ・従業員エンゲージメントの向上 ・報連相の向上 ・出口管理 ・自己認識 ・リーダーシップ ・能力開発(コミュニケーション力、聴講、共感、EQ, コーチング)	D.Dashmaa	



3	マーケティング	2024.05.06-05.10	・マーケティングとは？マーケティングとブランディング ・マーケティングプロセスの全体像 ・市場調査、STP分析 ・ペルソナマーケティング、4P/4C ・デジタルマーケティングとは ・トリプルメディア ・カスタマージャーニーマップ ・インフルエンサーマーケティング ・インバウンド・コンテンツマーケティング ・KGI/KPI設計・データ分析 ・システム・データベース	小木曾尚志	
4	財務管理	2024.05.22-26	・財務意思決定（貨幣の時間的価値、長期的・短期的財務意思決定） ・財務分析（財務諸表と財務諸表構造、連続性、資金回転、使用、収益性、支払い力、生産分析） ・コスト、生産、利益関連分析（破断点、目標収益、境界確定、販売ミックスと費用、生産と収益の関連、費用構造と財務レバレッジ分析）	Ts.Bayanmunkh	

表-3: 通常コース 経営者クラス 25 期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	日本的経営	2024.09.09-10		・事業環境の変化 - VUCAの時代 - SDGsの世界的取組 ・日本的経営の特色 - 経営者の役割、経営理念、顧客志向、組織文化とリーダーシップ - 事業戦略、人材育成	出口智	
2	コンプライアンス	2024.09.12-13		・なぜコーポレート・ガバナンスが重要なのか？ ・コンプライアンスとコーポレート・ガバナンスの最近の動向 ・コーポレート・ガバナンスの強化・改善方法	藤本和久	
3	経営戦略	2024.09.16-21		・企業上位目標とビジネス環境分析 ・BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、 ・ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・経営戦略とリンクした事業戦略 ・経営戦略とKPIベースの組織業績管理 ・中小企業向け経営戦略と事例	河口真一郎	



4	マーケティング	2024.10.07-12		・グローバルな事業環境の変化ーユニコーン出現の背景 ・マーケティングの定義及び特徴の時代的変遷 ・プロダクト・アウト及びマーケット・イン ・伝統的なマーケティング手法ー新商品発売の6ステップ・アプローチ ・ブルー・オーシャン・マーケティング戦略 ・付加価値創造 ・インパクトのあるマーケティング・メッセージ作成技術	平川 雅一	
5	人事管理	2024.10.14-19		・人事に関わる問題意識、出口管理 ・計画経済と市場経済の人事 ・経営戦略と人事戦略 ・組織開発 ・人材像の明確化、採用 ・On boardingプログラム ・能力開発 ・企業文化 ・人事基盤制度	山崎京子	41
6	財務管理	2024.11.18-23		・財務諸表と財務分析 ・財務分析方法 ・財務諸表の不正箇所の見つけ方 ・管理会計 ・経営改善のための財務分析 ・事業計画の策定とカンパニーロードマップ	竹口義弘	

表-4: 通常コース 管理職 クラス 25 期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	経営戦略	2024.09.23-27		・企業上位目標とビジネス環境分析 (SWOT)、企業の持続的な発展の要素 ・BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・KPIベースの組織業績管理 ・経営戦略とリンクした事業戦略	N.Batdelger	



2	マーケティング	2024.10.14-18		・マーケティングの定義及び特徴の時代的変遷 ・グローバルな事業環境のダイナミックな変化と商機 ・プロダクトアウト及びマーケットイン ・カスタマー・セントリック・マーケティング・モデル ・伝統的なマーケティング手法 ・用意周到な準備 ・実践的なマーケティング手法ー 5 ステップ・マーケティング・フレームワーク ・データドリブン・マーケティング ・効果的なピッチ資料の紹介	平川雅一	36
3	人事管理	2024.10.28-11.01		・自社の人事課題の明確化 ・人事管理の変更について ・人事管理とは ・企業文化と人事管理の関連性 ・人事計画 ・人事採用 ・労使関係の基本(労働法の概要)、労働安全衛生 ・業績管理 ・給与、報酬、福利厚生 ・人材開発 ・従業員エンゲージメントの向上 ・報連相の向上 ・出口管理 ・自己認識 ・リーダーシップ ・能力開発(コミュニケーション力、聴講、共感、EQ, コーチング)	D.Dashmaa	
4	財務管理	2024.11.18-22		・財務意志決定(貨幣の時間的価値、長期的・短期的財務意思決定) ・財務分析(財務諸表と財務諸表構造、連続性、資金回転、使用、収益性、支払い力、生産分析) ・コスト、生産、利益関連分析(破断点、目標収益、境界確定、販売ミックスと費用、生産と収益の関連、費用構造と財務レバレッジ分析)	Ts.Bayanmunkh	



表-5：基礎コース

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	マーケティング	2024.01.27	新入社員、スタートアップ起業家	1. マーケティングの基本概念 2. マーケティングの仕組みを理解する 3. 状態の分析、市場調査 4. STP 戦略 5. マーケティングの基本方針または 4P:	B.Ugtakhjargal	39
2	人事管理	2024.02.24		・ 人事管理の基礎 ・ 人事管理の基本的な機能（計画、採用、評価、育成） ・ 職場におけるリーダーシップ、モチベーション向上	D.Dashmaa	41
		2024.11.12-13				17
3	店舗管理	2024.03.23		・ 商業施設型店舗 ・ 店舗施設計画（外装計画、スペース計画） ・ 商品管理（商品性、商品陳列、コーディネート陳列）	J.Gansukh	46
4	5S 活動	2024.04.06		・ 5S とは何か？なぜ必要なのか？どのように実施するか？ ・ 5S 活動実践（整理、清楚、整頓）、グループ発表 ・ 見える化	D.Dolgormaa	50
5	財務管理	2024.04.27		・ 財務管理の概要 ・ 財務管理者による意思決定 ・ 投資意思決定 ・ 投資の必要性、段階的な決定 ・ キャッシュ・フローの計算 ・ 貨幣の時間的価値 ・ プロジェクトの評価方法 ・ 資本コスト計算 ・ 収益のプロジェクトの選択方法	V.Danaasuren	28
6	生産管理	2024.05.25		・ TPS の基礎 ・ トヨタの 7 つの無駄 ・ 標準化 ・ 改善 ・ フィッシュボーンダイアグラム ・ QC 7 つ道具 ・ VSM ・ TPM	N.Batchuluun	42
7		2024.06.15		・ プロジェクトとは	B.Munkhtsog	21



	プロジェクトマネージャー			- プロジェクトの段階 - プロジェクト管理、方法 - リスク管理		
8	ガバナンス	2024.08.27		- 急速に変化する世界とビジネス環境 - 企業ガバナンスと管理システム - 取締役会と経営陣 - 企業の責任とビジネス倫理	S.Sanaser	20
9	経営戦略	2024.09.14		- 戦略の基本概念戦略管理 - 経営戦略 - 外部環境分析 - 内部環境分析 - 企業の総合戦略 - 企業のビジネスモデル	B.Munkhtsog	18
10	日本的経営	2024.10.26		- 経営の基礎 - 日本的経営の特徴 - 生産ピラミッドと 5S の基礎 - モンゴルの経営の特徴 - 生産効果をアップさせるための人事を育成 - 日本的経営の実務例 - 日本企業の経験から学ぶ	J.Khishigjargal	23

表 6: 専門コース

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	エクセルを使ったビジネス分析	2024.01.17-19	企業経営者・幹部、マネージャー、会計士	- 財務モデリング基礎技術 - 財務モデルの設計技法 - 利益予測モデルと分析技法 - 財務諸表を用いた財務モデリング技法 - 財務モデルの作成 - 損益分岐点分析 - 企業価値の評価技法 - 企業価値評価モデルの作成	N.Batdelger	30
2	ビジネスプラン	2024.02.28-03.01	一般	- ビジネスプランの重要性と目的 - なぜビジネスプランが必要か? - ビジネスプランの構成要素 - ビジネスの概要とビジョン - 市場・競争の分析 - 顧客ニーズの特定 - 儲けの構造を理解する - 財務計画・予算案	出口智	39



3	KPI 管理	2024.03.18-22	KPI 導入中及び検討中企業の経営者、財務担当者	・人と組織を効果的に管理・運用する KPI 管理 ・経営（戦略/ビジネス・プロセス/業務プロセス）の可視化ツールとしての KPI 管理 ・戦略的人的資源管理・開発の可視化ツールとしての KPI 管理 ・KPI 管理を導入しているモンゴル企業の事例	河口真一郎	32
4	Data driven marketing	2024.03.25-29	企業のデータを活用しビジネスを 発展させたい方	・デジタルトランスフォーメーション ・E コマースの発達と顧客データ収集 ・ウェブサイトの設計 ・データの可視化 ・データ分析 ・コンジョイント分析 ・クロス集計の活用	福代和弘	34
5	人的資源管理	2024.04.15-19	企業経営者・幹部、人事マネージャー	・戦略的人的資源管理 ・人事基盤制度 ・評価・報酬・採用 ・能力開発・育成 ・組織開発	土橋隼人	22
6	店舗管理	2024.05.15-17	店舗、レストランなどのサービス業の企業経営者・幹部、マネージャー	・商品陳列 ・商品陳列の改善アドバイス ・顧客管理 ・カスタマージャーニーマップ ・人事 ・新入社員のオリエンテーション ・販売員のオリエンテーション ・店長のオリエンテーション ・販売促進 ・POP 広告、宣伝	J,Gansukh	48
7	エクセルを使ったビジネス分析	2024.06.24-27	企業経営者・幹部、マネージャー、 会計士	・財務モデリング基礎技術 ・財務モデルの設計技法 ・利益予測モデルと分析技法 ・財務諸表を用いた財務モデリング技法 ・財務モデルの作成 ・損益分岐点分析	B.Oyundari	14



				・企業価値の評価技法 ・企業価値評価モデルの作成		
8	Global Value Chain	2024.08.19-23	産業分野に興味のある方、製品の輸出を考えている起業家の方、国際経済に興味のある方	・「東アジアの奇跡」と日本ー東アジアの工業化の経験から学ぶ ・グローバル経済のダイナミズムとグローバル・バリューチェーン（GVC） ・グローバル経済の中のモンゴル ・産業の特性を理解するー垂直統合型（VIS）と国際分業型（IFS） ・ビジネスと持続可能性	後藤健太	35
9	ビジネスプラン	2024.09.11-13	一般	・ビジネスプランの重要性と目的 ・なぜビジネスプランが必要か？ ・ビジネスプランの構成要素 ・ビジネスの概要とビジョン ・市場・競争の分析 ・顧客ニーズの特定 ・儲けの構造を理解する ・財務計画・予算案	出口智	35
10	マーケティング	2024.09.30-10.04	一般	・FoodExpo 2024 ・展示会出展から商品販売までの一連のプロセス及び効果的な取り組み手法 ・ターゲット市場の調査 ・市場構造・販売チャネル分析 ・自社商品をアピールする効果的な手法 ・「5ステップ・マーケティング」手法 ・展示会出展、出展後、商品販売に至るまでの要チェックポイント	平川雅一	38
11	Data driven marketing	2024.03.25-29	企業のデータを活用しビジネスを発展させた方	・デジタルトランスフォーメーション ・E コマースの発達と顧客データ収集 ・ウェブサイトの設計 ・データの可視化 ・データ分析 ・コンジョイント分析 ・クロス集計の活用	福代和弘	31



12	生産管理	2024.12.02-06	製造業の経営者、管理職、工場長	・生産管理の基礎知識 ・見える化 ・PDCA サイクル ・品質管理・標準化 ・安全衛生管理 ・QC7 つ道具 ・5S 活動 ・マネジメント力向上	高安光晴	34
						392

表-7: モデル企業課題解決型プログラム

	No.	企業名	事業分野	プログラム内容	期間
2024-2025年	1	Premium Palace社	ホテル・レストラン	・従業員満足度の定期的評価による満足度の維持向上及び維持 ・全社レベルの経営戦略の策定	2023.04-2024.06
	2	Caffe bene Mongolia社	カフェ・食品製造	・人事制度の改善、従業員満足度の定期的評価による満足度の維持向上 ・生産管理の向上	2023.11 - 2024.06
	3	Cashmare holding社	カシミヤ・ウール製品製造・販売	・戦略的な目標設定、ビジネス環境分析 ・SWOTベースの全社的経営戦略を策定、SWOTベースの全社戦略にリンクしたCSF、SGKI、KPIの設定、課、チーム、個人のKPIに展開	2023.09-2024.06



表-8: 企業内研修

No.	企業名	テーマ	期間	講師	受講者数
1	GTN 社	人事管理	2024.01.05	D.Dashmaa	9
2	MYK 社	報連相	2024.1.12	D.Dashmaa	9
3	Stimo 社	ビジネスプラン	2024.2.29	出口智	11
4	Baigaliin chuluun hiits 社	タイムマネジメント	2024.3.4	D.Dashmaa	23
5	Khaanzaa service 社	タイムマネジメント・自己啓発	2024.3.11,22	D.Dashmaa	24
6	Khaan 銀行中小企業支援センター	店舗管理	2024.3.15	J.Gansukh	16
7	NUM・国際関係学部	KPI	2024.3.18	河口真一郎	2.5
8	Monnider 社	経営戦略	2024.3.21	N.Batdelger	8
9	Bumbod 社	経営戦略	2024.4.6,29	N.Batdelger	20
10	Green Chemistry 社	5S 活動	2024.4.14	D.Dolgormaa	25
11	Munkhiin Useg	人事管理	2024.4.16	D.Dashmaa	40
12	Zawkhan 県	人事管理、経営戦略	2024.4.19,20	D.Dashmaa, N.Batdelger	500
13	Golden Govi 社	5S 活動	2024.4.24	D.Dolgormaa	35
14	Azura Painting 社	マーケティング	2024.5.6	小木曾久之	9
15	Red Rock Holding	マネジメント	2024.5.14,28	N.Batdelger	24
16	Monshibasaki 社	人事管理	2024.5.26	D.Dashmaa	24
17	Uguuj-Chiher Boov 社	生産管理	2024.6.8	N.Batchuluun	16
18	Gobi 社	5S 活動	2024.6.10	D.Dolgormaa	26
19	Gobi 社	生産管理	2024.6.06	N.Batchuluun	26
20	Duuren Food 社	プロジェクトマネジメント	2024.6.12	B.Munkhtsog	7
21	Boroo Gold 社	KPI	2024.6.18,20	N.Batdelger	54
22	Duuren Food 社	経営戦略	2024.6.21	N.Batdelger	7
23	Baigaliin Chuluun Khiits 社	5S 活動	2024.6.26	D.Dolgormaa	26
24	Invescore Property	5S 活動	2024.8.14	D.Dolgormaa	33



25	Mandal Group	企業文化	2024.8.14	大西義文	15
26	Mergen Engineering service	人事管理	2024.8.16	D.Dashmaa	5
27	Red rock Holding 社	タイムマネジメント	2024.9.10	D.Dashmaa	18
28	Naran Group	ビジネスプラン	2024.9.11	出口智	60
29	Gegeen Dalai 社	ビジネスプラン	2024.9.12	出口智	9
30	Khuns Complex 社	生産管理	2024.9.25	N.Batchuluun	16
31	Khuns Complex 社	経営戦略	2024.10.1,2,3	N.Batdelger	16
32	Optimal Nmax 社	経営戦略	2024.10.9,10	N.Batdelger	14
33	Enoteca Plus 社	マーケティング	2024.10.10,11,14,15	平川雅一	4
34	Red rock Holding 社	経営戦略	2024.10.15	N.Batdelger	10
35	BOTA LLC	店舗管理	2024.10.30,31	J.Gansukh	20
36	Goviin Oyu Foundation NGO	プロ・マネ	2024.11.9	B.Munkhtsog	3
37	Monos Khuns 社	生産管理	2024.12.3	高安光春	20
38	EES 社	5S 活動	2024.12.9	D.Dolgormaa	30
39	Dulguun Orkhon 社	店舗管理	2024.12.12	J.Gansukh	7
40	Amgalan Zaya 社	5S 活動	2024.12.18	D.Dolgormaa	15
41	Khuns Complex 社	経営戦略	2024.11.29,12.4,12,14,18,21	N.Batdelger	10

表-9: 本邦研修参加者リスト

1. 通常コース修了生

No.	名前	職種	企業名
1	G.Amarjil	社長	Aya Corset Belt 社
2	G.Ariuntugs	ゼネラルマネージャー	Tulga Tukhuurumj 社
3	M.Batbayar	品質担当部長	Deluxe Furniture 社
4	B.Bayandalai	社長	Smart ERP Pro Experts 社
5	B.Bayarmaa	工場長	Master Foods 社
6	B.Bolortsetseg	建材品質担当マネージャー	MAK 社
7	O.Davaanyam	営業マネージャー	Baigaliin Chuluun Khiits 社
8	B.Delgerekh	事業開発部次長	Lifetronik 社
9	A.Ganbat	社長	Neukraft 社
10	B.Narangerav	社長	Amgalanzaya 社



11	Ts.Purevjargal	社長	Jack International 社
12	G.Turtogtokh	福社長	Zangia Portal 社
13	D.Tuvshinjargal	社長	Khanjintrans 社
14	D.Ulziikhand	社長	Taivan Khairkhan 社
15	D.Urango	社長	Goo life Lores 社

2. モデル企業

No.	名前	職種	企業名
16	D.Bold-Erdene	シニアスーパーバイザー	Caffe Bene Mongolia 社
17	Ts.Tsengelbayar	業績担当マネージャー	Cashmere Holding 社
18	E.Onon	レストラン担当部長	Premium Palace 社

3. 現地講師

No.	名前	職種	企業名
19	D.Dolgormaa	現地講師	モンゴル・日本センター
20	B.Ugtakhjargal	現地講師	モンゴル・日本センター

4. モンゴル・日本センター

No.	名前	職種	企業名
21	O.Bayarmaa	ビジネスコース課主任	モンゴル・日本センター
22	Kh.Jargalmaa	ビジネス課職員	モンゴル・日本センター



II.コラム

1) 西モンゴルの女性組合のカンファレンスにて登壇

2020年に初めてビジネスコースをオンラインで実施して以来、地方からビジネスコースに参加する人や参加したいと依頼する人の数が増えてきています。今回は Zavkhan 県の自治体の協力で西モンゴルの女性組合の「共に学び、共に成長しよう」というカンファレンスにモンゴル・日本センターの現地講師が登壇させていただきました。

当センターのジェネラルマネージャーの N.Batdelger 氏は「経営戦略」、「クラスターによる成長の機会」というテーマで、現地講師の D.Dashmaa 氏は「SDGs について知識を深める」、「人事管理の基礎」というテーマで約 500 名の参加者向けに発表をしました。

当カンファレンスの一環として実施された Zavkhan 県 Uliastai 市の中等学校巡回では、在学中の中高生計 700 名に向けて「キャリアについて考える-日本留学を検討するのであれば考えるべきこと」というテーマで自分の経験を踏まえて話をしました。地方には多数のビジネスチャンスやそのリソースが秘められていること、さらに、その地方ならではのユニークの技術、ノウハウがあり、その機会をみんなで力を合わせてどのようにしてビジネスとして展開させるのか、



写真 11. D.Dashmaa 講師登壇の様子

写真 12. N.Batdelger 講師の登壇の様子

そのために各個人が何ができるのか、力を合わせることによってどのような成果が出せるのか、さらに自分の国の将来や子供たちのために持続可能な発展をどのように維持するのかについて 2 日間にわたって意見交換を行い、有意義な時間を共に過ごすことができた。



2) 現地講師向けの「リーダーシップとチームビルディングによる価値創造」コースを初めて実施

モンゴル・日本センターで初めての試みとしてモンゴル人現地講師向けに実践的で参加型の講義を進めるための実践コースとして 2 日間にわたり実施した。当コースはモンゴル・日本センターで JICA の専門家として人事管理コースを指導している講師が担当した。講師は実務とアカデミックの両方の領域の経験が豊富で、モンゴルでは 18 年にわたり人事管理のコースを指導している講師でもある。その長年の経験をもとに、コースの進め方、その中で講師が一方的に教えるのではなく参加者の興味を引き出し、コースに参加してもらうための秘訣を現地講師の方々に共有した。

コースでは 6 つのアクティビティを取り入れました。講師はそのアクティビティを活用し、教えている内容をより深く理解してもらうため、ただゲームを楽しんで終わるのではなく参加者をどのように巻き込み、そのゲームから何を学ぶのか、その学びをどのようにフィードバックするのかについてレクチャーをした。



写真13. 山崎京子講師



写真14 演習の様子

コースにはモンゴル・日本センターの管理職及び現地講師、モンゴル国立大学の教員や生命科学大学の教員の合計 21 名が参加した。コース後のアンケート評価結果によると、各教員が今後の自分の授業に取り入れるべきアクティビティを学び、その重要性を改めて理解したとのコメントが多く寄せられ、ニーズに合ったコースだったといえる。

3) エルデネット市にて「人事管理」コースを実施

モンゴル・日本センターのビジネスコースは 100% 対面型で実施しているため、参加者の多くはウランバートル市の企業から申し込みである。他方、地方からビジ



ネスコースに参加したいという依頼も後を絶たないため、当センターとしてもなるべく地方の参加者のニーズに合ったコースを地方で実施したいと考えている。

その一環で地方の企業の人事課題について話し合い、解決策を共に探るための「人事管理」基礎コースをエルデネット市にて実施したのは、我々にとって今後の大きな一歩だったといえる。

2024 年 11 月 12 日～13 日にエルデネット市にて「人事管理」基礎コースをオルホン県の商工会議所の協力の下で実施し、モンゴル・日本センターの現地講師の D.Dashmaa が担当し、コースにはエルデネット市にて様々な事業を行っている企業の代表である 16 名が参加した。参加者全員が非常に積極的で、学ぶ意欲が非常に高かったことが印象的だった。



写真 15. エルデネット市「人事管理コースの様子」



写真 16. 演習の様子

参加者それぞれが人事管理において直面している課題を共有し合い、意見交換をしながらお互い学び合う姿勢を持って参加していたのは、コースを効果的に実施できた要因の一つであったといえる。



II. ビジネス交流課





I. 2024 年ビジネス交流促進活動全般

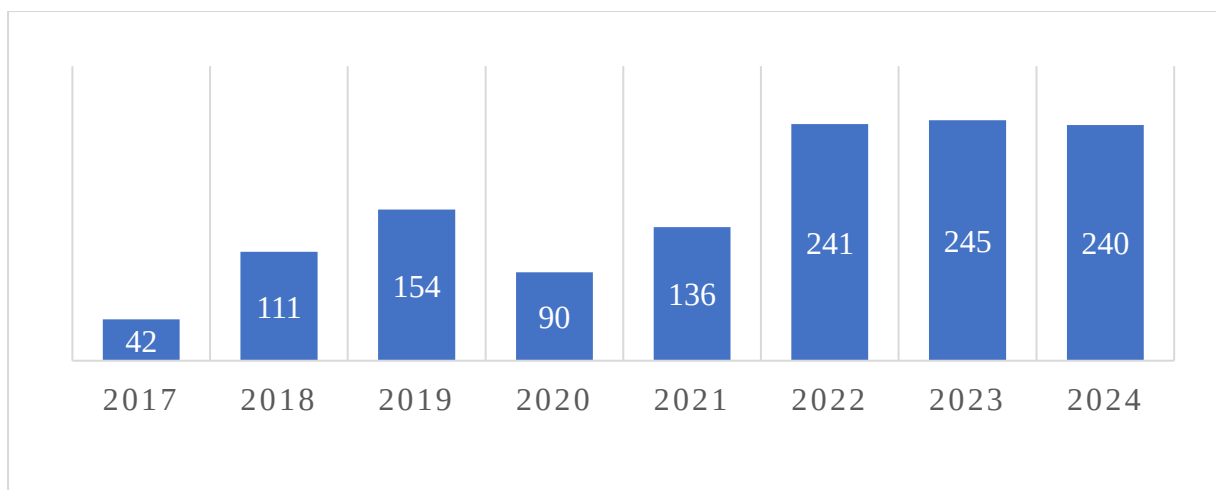
モンゴル日本人材開発センター（以下、「モンゴル・日本センター」）ビジネス交流課は、2024 年に両国のビジネス協力を促進する活動を拡大し、多くのプロジェクトの実施を支援した。

モンゴル・日本センターのビジネス交流支援事業は 8 年間継続してきた。本年、「ビジネス交流課」が正式に設立されたことは、今後の活動の安定的な継続に向けた重要な出来事とである。ビジネス交流事業におけるモンゴルおよび日本の利用者数は、前年と比較して安定し、240 名以上にサービスを提供した。また、モンゴル・日本間のビジネス交流がさらに活性化し、合計 19 種類の活動が成功裏に実施した。両国間のビジネスおよび人的交流が急速に発展しているほか、今後は他国の日本人材開発センターとの協力を強化し、日本以外の国との協力の可能性も広がっている。

本年は、日本企業のモンゴル市場や文化への関心が前年と比べて増加した。JICA や JETRO などの国際機関との共同事業をはじめ、民間企業からの要請に基づき、イベント、セミナー、商品・サービスの展示会を成功裏に実施した。これらの活動の結果、モンゴルの若者が日本で働く機会が拡大し、日本企業の製品・サービスがモンゴル市場に進出する機会も増加し、協力関係の基盤が築かれた。

ビジネス交流事業では、情報の発信や、認知の向上を測る指標として面談者数¹を記録している。

¹ ここでいう面談とは、対面、若しくはオンラインによる手段で、相談や問い合わせに応えたり、受託事業に関する企画・運営に係る会議を行った数をいい、単なる。



2017 から 2024 年までの面談数の比較を表したグラフである。

2024 年には、JICA 草の根事業案件、民間連携事業案件その他公的委託事業案件の実施支援した。以下に、主な活動内容をまとめる。

No.	事業名	
1	JICA が関連する事業 (有料)	草の根事業・ウランバートル市（ユニットラド）報告書翻訳事業
2		日本政策金融公庫(モンゴルツアー)
3		オリエンタルコンサルタンツ (脱炭素社会実現のための都市間連携事業委託業務)
4		JICA 九州モンゴルツアー
5	JICA が関連する事業 (無料)	MONJA 2024
6		モンゴル・日本ビジネスフォーラム
7		Foodex2024、2025 出展事業/運営メンバー/
8	民間連携事業 (有料)	有限会社 小沢テント（農産品の貯蔵倉庫展開における 事前調査事業）
9		千葉銀イベント
10		コージツ社イベント（Saikou Day）
11		HIS（アンケート調査）
12		MDA - HATTORI PAPER
13	その他事業(有料)	JETRO ミッション
14		在モンゴル日本大使館、OKA & BAYAR 法律事務所（モンゴル法律セミナー）
15		品川区セミナー
16		日立地区産業支援センター
17		新潟県対外技術交流協会（本邦研修）



18		JFM 2024
19	マッチング事業(有料)	Kaigen Pharma Co., Ltd.&Next Generation Health LLC

MOJC のビジネス協力支援サービスの収益は年々安定しており、ビジネス支援活動の継続的な普及、広報活動の強化、およびサービスの質の向上が大きく貢献している。

今後の展望

今後は、日本・モンゴル間のビジネス協力の環境を継続的に整備し、公的事業以外にも民間同士での交流を更に促進する計画である。また、他の日本人材開発センターとの共同活動を推進し、日本以外の国々との協力の可能性を拡大する予定である。



II.コラム

1) モンゴル国の「ものづくり技術の底上げ」に関わるテーマとして訪日研修

モンゴル・日本センターは、新潟県対外科学技術交流協会と協力し、モンゴル国の「ものづくり技術の底上げ」をテーマとした訪日研修を共同開催するための3年間の協定を締結した。この協定に基づき、2024年11月17日から25日までの間、食品産業に従事するモンゴル・日本の「通常コース」修了企業2社の代表者、および同センターのビジネス交流課の職員を含む3名のチームが、新潟県の企業を訪問し、その活動を視察するとともに、経験を共有した。

研修の準備段階からプログラムの設計に至るまで、モンゴル・日本センターと新潟県対外科学技術交流協会が綿密に協力し、事前に参加企業のニーズを調査した。これに基づき、訪問先の企業や指導を受ける専門家、研究機関などの内容を設定したことが、研修の高い成果につながる要因となった。

研修期間中、参加者は日本企業の運営方法を学ぶだけでなく、日本の文化や日本式マネジメント手法を直接体験し、自社に応用できる多くのアイデアを得ることができた。研修は、大きな成果を上げたプログラムとして成功裏に終了した。



写真17. 「株式会社栗山米菓：ばかうけファクトリー」訪問
写真18. 「新潟農業・バイオ専門学校 Abio」訪問、授業様子

この研修は協定期間中、毎年実施される予定であり、今後も研修プログラムや内容を継続的に改善し、実践的な成果を生み出す研修となるよう計画的に取り組んでいく。



表-10 : 「ものづくり技術の底上げ」訪日研修 参加者リスト

No.	名前	職種	企業名
1	B.Sarnai	ビジネス交流課 スタッフ	モンゴル・日本人材開発センター
2	M.Narantuya	イノベーション・テクノロジー部・部長	Jur Ur 社
3	E.Altantuya	工房長	Uguuj-Chiher Boow 社

表-11 : 「ものづくり技術の底上げ」訪日研修行程表(2024 年度)

月日	訪問先
11 月 17 日 (日)	成田着 : 14 時 30 分 成田エクスプレス 32 号 : 空港第 2 ビル 15 時 18 分発→東京着 16 時 14 分 上越新幹線 とし 331 号 : 東京 16 時 40 分発→新潟着 18 時 42 分 新潟駅～ホテル
11 月 18 日 (月)	10 時～「株式会社栗山米菓 : ばかうけファクトリー」 商品パッケージ戦略、製造の自動化が進んでいる米菓工場 12 時～「ふるさと村」 (レストラン番屋亭にて昼食) ふるさと村施設見学 14 時～「いくとびあ食花」食育・花育センター
11 月 19 日 (火)	10 時～「亀田製菓(株) 白根工場」 : 日本市場でのシェア 32.9% 工場概要説明、工場見学、意見交換 12 時 30 分～昼食 (アグリパーク内) 13 時 30 分～「新潟市アグリパーク」 施設概要説明、食品加工センター見学、施設内見学
11 月 20 日 (水)	10 時～「農業総合研究所食品研究センター」 11 時 30 分～昼食 (加茂市 海鮮お食事処鴨川) 13 時 30 分～「DMG MORI Precision Boring 株式会社」 高精度、大型工作機械メーカー、CAD・CAM システム 15 時～「ガトウ専科 夏花火館」 製造風景を窓越しで見学
11 月 21 日 (木)	9 時 30 分～10 時 有限会社安田ヨーグルト : 乳製品 11 時 30 分～昼食 (燕三条物産館内 Tsubamesanjo Bit 燕三条本店) 「燕三条物産館」見学 13 時 30 分～藤次郎株式会社「藤次郎オープンファクトリー」 15 時～17 時 活動報告、意見交換 知足ホール 18 時～懇親会
11 月 22 日 (金)	10 時～「新潟県 醸造試験場」 新潟の酒造りの概要の説明 12 時～昼食 (アートホテル新潟駅前 レストラン彩巴 (いろは))



	13 時 30 分～ 「新潟農業・バイオ専門学校 Abio」 専門学校の概要、校内ツアー、地域資源を利用した商品 開発（菓子類、他）と研究報告
11 月 23 日（土）	10 時 30 分～「市場調査」 12 時～昼食 13 時 30 分～「市場調査」 18 時～夕食
11 月 24 日（日）	新潟→東京 東京にて自由行動
11 月 25 日（月）	成田発 15 時 30 分 OM502

2) ビジネス交流課の出発の現在

今回よりビジネス交流課の記事が独立して年報に掲載されることを心より喜ばしく思っている。ビジネス交流支援事業は 2015 年からモンゴル・日本センターで実施されており、早や 10 年が経過しようとしている。

私は、2017 年 9 月に JICA から派遣されこの事業の担当者となった。当初、新しい事業であったビジネス交流支援事業は、モンゴル・日本センターの職員の皆様方にイメージを持っていたことができず、何かをやるたびに皆さんに説明し、ご理解を頂き、手伝っていただき、

手探りで始まった事業である。それが独立した課となるまで成長するにはモンゴル・日本センターの職員の皆様方の並々ならぬご尽力があったからこそと感謝申し上げます。

赴任前には、月に 2～3 件であったビジネス交流支援にかかる面談数が月に 10 回を超える様になってきた 2019 年。ビジネス課の職員の皆様方にも積極的に手伝っていただけるようになってきたことで、センター独自の収入も増えてきた。さらに、日本に留学していたオユンチメグ課長もモンゴル・日本センターに復帰したことでこれからビジネス交流支援事業が主要な事業の一つの大きな柱になるとの期待がモンゴル・日本センターの皆様にも年々膨らんでいったのではないかと思います。



写真 19 JICA ビジネス交流支援・モンゴル人の日本就職支援専門家 中村 功



しかし、その先に待っていたのは、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延だった。

2020年度の記録を見ると、ビジネス交流関連の面談数は、79件と、2019年度の半分になっている。ビジネスでのモンゴルへの渡航や、日本への渡航もほぼ実質的に不可能となった時代だった。その時は、いつかくるコロナウイルス感染の終息に向けて、事業の種をあちこちに蒔く活動をしていた。そこからもう既に5年が経過しようとしている。そうした取り組みもあり、この一年間の面談数は300を超え、コロナ禍以前の2倍にも増えている。ビジネス交流支援事業による収入もコロナ禍以前を優に超える様になってきた。

最初はゼロ名であったモンゴル・日本センターの担当者も今では3名になるほどとなった。こうして進められてきたビジネス交流支援事業である。私が配属されていた7年間で色々な活動を行ってきた。

その中でも、一番印象に残っているものの一つが、ジャパンフェスティバルをモンゴル・日本センターが主催者の一人として開催することになったことだ。ジャパンフェスティバルは「誰もが知っている有名な日本系のイベントを開催して、モンゴルのことを日本の方に、日本のことをモンゴルの方に知ってもらいたい」という発起人の方々の熱い思いがこもったイベントである。



写真 20-1, 20-2. 「Japan Festival in Mongolia-2024」の様子

2019年の第1回目の開催は、6000人弱、2022年は9000人弱、そして、2024年の開催は、スフバートル広場で開催したこともあり、2日間で実に26,000もの方々に来場いただくイベントに成長してきており、多くのモンゴルの方に知られる様なイベントになってきている。また、このイベントと同時期に、日本とモンゴルのビジネスフォーラムが2022年からモンゴル・日本センターも共催者として開催され、



8月のお盆明けは、さながら JAPAN WEEK といった様相を呈する、盛況なイベントに成長していること。そして、これらの事業に JICA 専門家としてかかわらせて頂いたことを心から喜ばしく、そして誇りに思っている。

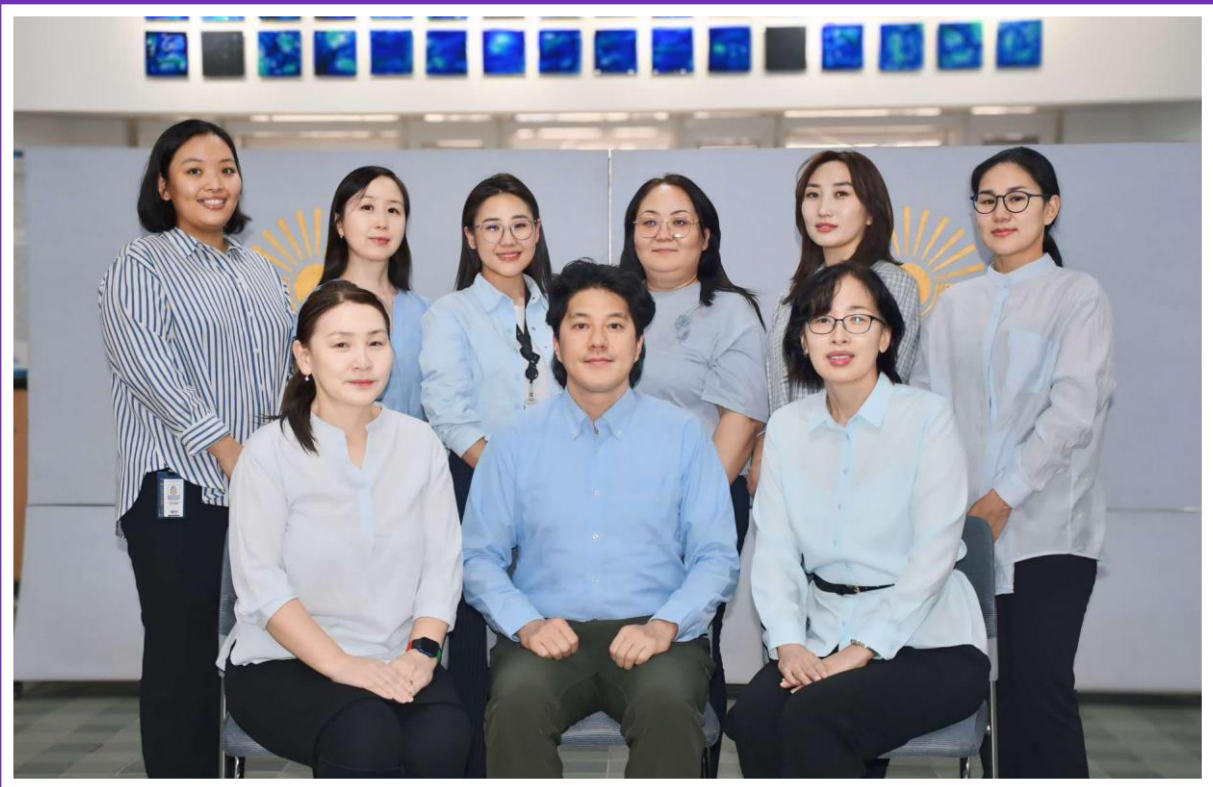
この7年間で、モンゴルの経済は大きく成長してきたし、現時点ではこれからも大きく成長すると考えられる。私が最初モンゴルに来た、23年前とはまるで別世界です。昼食が100円でお腹いっぱい食べられた時代から、今では、モンゴルと日本の物価はほぼ同じに。そして、一部では日本以上になっている。

だからこそ正に今、日本の企業にとってはモンゴルの市場はチャンスであると思えるし、モンゴルの企業にとっては、日本の市場はこれから進出していくチャンスがある市場ともいえる。私は、2025年4月21日を以て、任期終了でモンゴルを離任するが、これからもモンゴル・日本センターのビジネス交流課がモンゴルと日本を繋ぐ架け橋となり、モンゴルと日本が経済面においても良き隣人、パートナーとしてお互いに発展する関係を構築していくことを切に願っている。

最後になるが、国際交流基金の調整員として勤務していた時期を含むと9年間、モンゴル・日本センターにお世話になり、多くのモンゴルの方、日本の方にご協力賜り、無事、任期を終了できそうだ。そうした皆様方に心より感謝の意を申しあげたいと思う。本当にありがとうございました。



Ⅲ. 日本語課





I. 2024 年日本語課全般

モンゴル・日本人材開発センター（以下「モンゴル・日本センター」）の日本語課では、2012 年 4 月より JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダード）に準拠した日本語教育「JF 講座」を春期、夏期、秋期に実施している。また、日本語レベル確認テスト、スタディツアー、日本文化体験教室など多様な事業を企画し実施している。

さらに上記事業のほかにも様々な受託事業を行っている。2024 年は「特定技能」関連事業、「京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座」、「モンゴル JDS 来日準備日本語コース」などを引き続き実施したほか、「日本語ガイド上級コース」及び「JICA インターンシッププログラム参加希望者対象の事前日本語研修」をはじめて実施した。

1. 日本語講座の概要

日本語講座の大部分は上述の JF スタンダードに則して実施している。本報告書は 2024 年 2 月～5 月の春期コース、5 月～7 月の夏期（前半）コース、7 月～8 月の夏期（後半）コース、9 月～12 月の秋期コース（2025 年 1 月終了）の実績報告となる。

春期コースと秋期コースでは、レベル別の「総合日本語コース」、「(11 歳～13 歳) 子ども向けまるごとコース」、日本語教師向けの「日本語教育講座」を開講している。それぞれの内容および実績の詳細については次表をご参照いただきたい。「総合日本語コース」は期間が約 4 か月で、入門 (A1) レベルの「総合日本語 1 コース」から中級 (B1) レベルの「総合日本語 6 コース」まで設けている。2024 年の「日本語教育講座」は春期・秋期ともに「JF 日本語教育スタンダードを活かした初級日本語の教え方」というテーマで実施した。夏期（前半・後半）コースでは「ゼロ初級コース」を 4 クラス、「(8 歳～10 歳) 子ども向け日本語講座」を 1 クラス開講した。

それ以外の講座としては、前年に引き続き春期に「日本語観光ガイド養成実践講座」（全 15 回、計 38 時間）を開講したほか、秋期に中上級日本語学習者向けの「仕事に役立つ実践日本語講座」を開講した。

2024 年の新規講座としては、春期に「中級レベル読解講座一選択式問題編一」、夏期に「PPT を中心とした日本語教材の作り方」実践講座を開講し、好評を得た。



2. 共催事業について（主催、後援、協力を含む）

2024 年の共催事業として 11 月に「第 30 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」を在モンゴル日本国大使館、モンゴル日本語教師会、モンゴル国立科学技術大学外国語学部、国際交流基金とともに開催した。また、「日本語教育研究会」など、多くの事業・イベントを関係機関と緊密に連携しながら実施した。



2024 年日本語課活動実績

表-12：春期コース、夏期コース、秋期コース

※出典：モンゴル・日本センター日本語課月次報告

No.	コース名	期間	内容	講師	受講者数
1	(11～13 歳) 子ども向けまるごとコース (A1 レベル)	2024/02/06- 2024/05/09	日本語をまったく学んだことがない 11～13 歳の子ども向けのコースで、JFS 準拠教科書『まるごと入門＜理解＞A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	P.マラル、栗山知之	11
2	総合日本語 1A (A1 レベル)	2024/02/05- 2024/05/20	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ゾルザヤ、S.アマルバヤスガラ ン、栗山知之	23
3	総合日本語 1B (A1 レベル)	2024/02/05- 2024/05/20	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ゾルザヤ、B.ブ マンツェツェグ、 栗山知之	26
4	総合日本語 2A (A2 前半レベル)	2024/02/05- 2024/05/20	A1 レベルの学習を対象とし、A2 前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、 P.アルタンブラ グ、佐藤慶一	21
5	総合日本語 2B (A2 前半レベル)	2024/02/05- 2024/05/20	A1 レベルの学習を対象とし、A2 前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	P.アルタンブラ グ、S.アマルバヤ スガラ、佐藤慶一	22
6	総合日本語 3A (A2 中間レベル)	2024/02/05- 2024/05/20	A2 前半レベルの学習者を対象とし、A2 中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、 P.マラル、 井駒かおる	15
7	総合日本語 3B (A2 中間レベル)	2024/02/05- 2024/05/20	A2 前半レベルの学習者を対象とし、A2 中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、 P.マラル、 井駒かおる	25
8	総合日本語 4 (A2 後半～B1 初めのレベル)	2024/02/06- 2024/05/30	A2 後半レベルの学習者を対象とし、B1 初めのレベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ゾルザヤ、 栗山知之	16
9	総合日本語 5 (B1 レベル)	2024/02/06- 2024/05/21	B1 初めのレベルの学習者を対象とし、B1 後半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、 井駒かおる	17
10	総合日本語 6 (B1 レベル)	2024/02/20- 2024/05/30	B1 後半のレベルの学習者を対象とし、B2 初めのレベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、 井駒かおる	14



11	日本語教育講座 (B2～C1 レベル)	2024/02/22- 2024/05/16	1) 第2言語習得理論・JF 日 本語教育スタンダードを活 かした基本的な日本語の教 え 方 を 知 る 。 2) 初級日本語の教案が作成 できるようになり、それを 元に模擬授業が行える。	鶴田靖行、 S.アマルバヤスガ ラン	14
12	日本語観光ガイド養 成実践講座	2024/04/01- 2024/04/17	日本語ガイドを目指す方が 対象。ガイド実務のノウハ ウやマナー、身だしなみ、 知っておくべき日本語の表 現等を理解・実践できるよ うになることが目的。講義 や経験談、ペアワークやグ ループディスカッション、 観光ガイドとしての実習等 を組み合わせた全15回38時 間のコース。	センター講師： O.ブルガン、E.エ ルデネツェツエ グ、P.マラル、B. ブマンツェツエ グ、S.アマルバヤ スガラン ゲスト講師： B.バトムンフ、B. ドラムスレン（モ ンゴルプロフェッ ショナル観光ガイ ド協会）、B.ガント ルガ（モンゴル赤 十字社）	17
13	中級レベル読解講座 —選択式問題編— ※新規講座	2024/04/02- 2024/05/21	中級レベルの読解に必要な 基礎力について理解を深め る。問題形式別の読解演習 を行い、選択式問題に対す る基礎力を活かした読み方 や解き方を理解し、実践す る。	鶴田靖行	14
14	ゼロ初級コース A (A1 レベル) ※夏期コース前半	2024/05/24- 2024/07/05	日本語をまったく学んだこ とがない人のためのコース で、JFS 準拠教科書『まるご と入門＜理解＞A1』を使っ てリスニング、会話、文 法、読み書きを学ぶ。	D.ゾルザヤ、S.ア マルバヤスガラ ン、栗山知之	28
15	ゼロ初級コース B (A1 レベル) ※夏期コース前半	2024/05/24- 2024/07/05	日本語をまったく学んだこ とがない人のためのコース で、JFS 準拠教科書『まるご と入門＜理解＞A1』を使っ てリスニング、会話、文 法、読み書きを学ぶ。	D.ゾルザヤ、 P.マラル、 P.アルタンブラ グ、 栗山知之	28
16	ゼロ初級コース A (A1 レベル) ※夏期コース後半	2024/07/18- 2024/08/28	日本語をまったく学んだこ とがない人のためのコース で、JFS 準拠教科書『まるご と入門＜理解＞A1』を使っ てリスニング、会話、文 法、読み書きを学ぶ。	D.ゾルザヤ、 D.ムンフトヤ、 栗山知之	28
17	ゼロ初級コース B (A1 レベル) ※夏 期コース後半	2024/07/18- 2024/08/28	日本語をまったく学んだこ とがない人のためのコース で、JFS 準拠教科書『まるご と入門＜理解＞A1』を使っ てリスニング、会話、文 法、読み書きを学ぶ。	D.ゾルザヤ、 O.ブルガン、 栗山知之	28



18	(8～10 歳) 子ども向け日本語講座	2024/07/18-2024/08/20	日本語を楽しく学び始めたい、もしくはひらがな・カタカナを学んでも補習が必要な 8～10 歳の子どもの向けコース。あいさつ、自己紹介、家族、好きな食べ物・飲み物、好きなもの、私の体、誕生日、趣味、私の 1 日、休みの日といったテーマで自分のことが言えるようになる。ひらがなが読める、書けるようになる。また、カタカナで自分の名前と国を読める、書けるようになる。	P.マラル、B.ブマンツェツェグ、栗山知之	16
19	「PPT を中心とした日本語教材の作り方」実践講座 ※新規講座	2024/08/13 2024/08/30	日本語の授業で使う PPT の基本、テーマ別授業（会話、文法、文字語彙）における PPT 教材の作り方を理解し、受講生による模擬授業を行う。	栗山知之、S.アマルバヤスガラ	11
20	子ども向けまるごとコース（11～13 歳）（A1 レベル）	2024/09/24-2024/12/24	日本語をまったく学んだことがない 11～13 歳の子どもの向けで、JFS 準拠教科書『まるごと入門＜活動＞A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶコース。	P.マラル、栗山知之	16
21	総合日本語 1A（A1 レベル）	2024/09/25-2025/01/13	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ソルザヤ、S.アマルバヤスガラ、松尾文	28
22	総合日本語 1B（A1 レベル）	2024/09/25-2025/01/13	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ソルザヤ、S.アマルバヤスガラ、松尾文	24
23	総合日本語 1C（A1 レベル）	2024/09/25-2025/01/13	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、P.アルタンブラグ、栗山知之	16
24	総合日本語 2A（A2 前半レベル）	2024/09/25-2025/01/13	A1 レベルの学習を対象とし、A2 前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ゾルザヤ、P.アルタンブラグ、O.ブルガン、栗山知之	25
25	総合日本語 2B（A2 前半レベル）	2024/09/25-2025/01/13	A1 レベルの学習を対象とし、A2 前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ゾルザヤ、P.アルタンブラグ、O.ブルガン、栗山知之	28
26	総合日本語 3A（A2 中間レベル）	2024/09/25-2025/01/13	A2 前半レベルの学習者を対象とし、A2 中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、P.マラル、栗山知之	8
27	総合日本語 3B（A2 中間レベル）	2024/09/25-2025/01/13	A2 前半レベルの学習者を対象とし、A2 中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの 4 技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、P.マラル、栗山知之	17



			標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	栗山知之	
28	総合日本語 4 (A2 後半～B1 初めのレベル)	2024/09/26- 2025/01/23	A2 後半レベルの学習者を対象とし、B1 初めのレベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、 井駒かおる	22
29	総合日本語 5 (B1 レベル)	2024/09/26- 2025/01/21	B1 初めのレベルの学習者を対象とし、B1 後半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、 井駒かおる	8
30	仕事に役立つ実践日本語講座	2024/10/08- 2024/12/24	中上級日本語学習者の実社会での日本語使用場面を想定し、仕事で日本人との対人関係を維持できる程度に適切に、電話、文書、メールで明確に内容を伝えながらやり取りできるようになることが目標。スピーキング、ライティング、プレゼンテーションの3分野に分けて指導。	E.エルデネツェツ ェグ、鶴田靖行	16
31	日本語教育講座 (B2～C1 レベル)	2024/09/26- 2024/12/19	1) 第2言語習得理論・JF日本語教育スタンダードを活かした基本的な日本語の教え方を知る。 2) 初級日本語の教案が作成できるようになり、それを元に模擬授業が行える。	鶴田靖行、S.アマ ルバヤスガラン	20
					604



表-13：2024 年特別講座&事業

No.	コース・イベント名	期間	内容	講師、担当者等	受講者数 参加者数
1	初中等日本語教員教授法研修会 2024	2024/01/23- 2024/01/26	初中等教員に対する日本語教授法研修を行い、モンゴル全土における日本語教育の振興及び質の向上に資するとともに、初中等教員コミュニティの強化を図る。テーマは「JF 日本語教育スタンダードに基づく会話の教え方」。内容は外国語教授法の歴史と特徴、外国語教育のシラバス、JF 日本語教育スタンダードにおける「会話力」、会話の教え方、ロールプレイの進め方と評価。	講師：鶴田靖行 運営担当：P.マラル、B.ブマンツェツェグ	24
2	日本語観光ガイド上級コース (B2～C1 レベル)	2024/02/19- 2024/03/25	H&A Friendship Co., Ltd の依頼で実施。主な内容は、サービス業での敬語やクッション表現、モンゴル史と日本史の比較、ツアー案内、伝承のストーリーテリング、地政学など。講義中心からワークショップやグループ活動、ペア活動を多く取り入れ、ガイド経験豊富な受講者同士が学び合える環境を整えた全 15 回 37 時間のコース。	センター講師： O.ブルガン、E.エルデネツェツェグ、B.ブマンツェツェグ、S.アマルバヤスガラン、滝口良、栗山知之 ゲスト講師：B.バトムンフ、B.ドラムスレン、M.ムングンツェツェグ (モンゴルプロフェッショナル観光ガイド協会)	17
3	モンゴル JDS 来日準備日本語講座 ※受託講座	2024/04/15- 2024/06/21	JDS による留学生に選ばれたが日本語を学んだことがない方のためのコース。JFS 準拠教科書『いそどろ生活の日本語』（入門 A1 レベル）を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	D.ムンフトヤ、 D.ゾルザヤ、 栗山知之	14
4	京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座 2024 ※受託講座	2024/06/17- 2024/08/14	JFS 準拠教科書『まるごと入門 A1』を用いて 4 技能の基礎固めを行うとともに、日常生活での基本的な表現と言い回しが理解できることを目指す。	鶴田靖行、栗山知之、Ts.オノン、E.エルデネツェツェグ	1
5	JICA インターンシッププログラム参加希望者対象の事前日本語研修 ※受託研修	2024/11/09- 2025/05/31	JFS-B1 レベル、JLPT-N3 レベル相当の日本語能力の習得を目指す研修。『まるごと』（初中級、中級 1）で日本語運用能力を磨き上げ、さらに N3 対策として語彙増強、文法的な正確さの向上、聴解・読解のストラテ	S.アマルバヤスガラン、D.ムンフトヤ、P.マラル、栗山知之	28



			ジーの育成、模試等を行う。		
6	小型・中型日本文化 体験教室 ※新規事業	2024/05/06 2024/05/09	第 118 番学校の依頼で、同 校 3 年生を対象に、日本の 伝統工芸（つまみ細工）、折 り紙（ハートのしおり）、日 本の遊び（けん玉、駒回 し、だるま落とし、トント ン相撲、忍者&手裏剣）の 体験を実施。	E.エルデネツェツ ェグ、D.ムンフト ヤ、P.アルタンブ ラグ、P.マラル、 O.ブルガン、B.ブ マンツェツェグ、 S.アマルバヤスガ ラン	74
7	Japan Festival in Mongolia 2024 への ブース出展	2024/08/17 2024/08/18	JF 日本語講座の紹介、秋期 コースの宣伝。	E.エルデネツェツ ェグ、D.ムンフト ヤ、P.アルタンブ ラグ、B.ブマンツ ェツェグ	500
8	日本人アイドルと日 本語学習者との交流 会	2024/08/19	日本人アイドルが「子ども 向け日本語講座」の子ども 達と一緒に折り紙をしたり、 歌を歌ったりして、文化 交流。	P.マラル、B.ブマ ンツェツェグ	52
9	モンゴルスタディッ アー	2024/09/04	東京経済大学の依頼で、学 生 29 名、教員 2 名を対象 に、センター事業、モンゴ ル国の概況、モンゴルと日 本の異文化について紹介し た後、モンゴル民族衣装 「デール」の試着体験を実 施。	P.アルタンブラ グ、E.エルデネツ ェツェグ、T.ボロ ルマー、E.ウラン ゴー	31
10	「JICA インターン シッププログラム参 加希望者対象の事前 日本語研修」プレ ースメントテスト（筆 記、面接）	2024/11/03	JICA インターンシッププロ グラム参加希望者を対象 に、日本語能力確認テスト N4 レベル、日本語口頭能力 及び学習意欲を審査	E.エルデネツェツ ェグ、S.アマルバ ヤスガラン、D.ム ンフトヤ、P.マラ ル、D.ツァツラル	35
11	モンゴルにおいて受 験可能な日本語試験 に関する受講者向け 説明会 ※新規事業	2024/03/26 2024/03/27 2024/03/28 2024/04/29	2024 年春期コース受講者を 対象に、モンゴルで受験で きる日本語試験を紹介	E.エルデネツェツ ェグ、D.ムンフト ヤ、P.マラル、P. アルタンブラグ、 B.ブマンツェツェ グ、S.アマルバヤ スガラン	131
12	モンゴル・日本人材 開発センター日本語 レベル確認テスト （N1-N5 レベル）	2024/05/13- 2024/05/17	各レベルの模擬試験実施。 言語知識（文字・語彙）、言 語知識（文法）・読解、聴解	E.エルデネツェツ ェグ、P.アルタン ブラグ、P.マラ ル、O.ブルガン、 B.ブマンツェツェ グ、S.アマルバヤ スガラン	105
13	モンゴル・日本人材 開発センター日本語 レベル確認テスト （N1-N5 レベル）	2024/06/10- 2024/06/17	各レベルの模擬試験実施。 言語知識（文字・語彙）、言 語知識（文法）・読解、聴解	E.エルデネツェツ ェグ、D.ムンフト ヤ、P.マラル、B. ブマンツェツェ グ、S.アマルバヤ スガラン	126



14	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N1-N5 レベル)	2024/10/07-2024/10/15	各レベルの模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	P.マラル、O.ブルガン、D.ツァツラル	61
15	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N1-N5 レベル)	2024/11/04-2024/11/08	各レベルの模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	P.マラル、P. アルタンブラグ、O.ブルガン、D.ツァツラル	96
16	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N3・N4・N5 レベル) ※下記機関の依頼で個別対応：BNM MEIRAI 社、イフザサグ大学、モンゴル生命科学大学、ログリフム学校、文化教育大学付属高校、ナラン学校、ノムトナラン学校	2024/01/17、02/20、03/15、03/20、04/04、04/10、05/01、05/30、06/05、07/22、08/26、10/25、11/14、12/20、計 14 回	日本語能力試験 (JLPT) N3・N4・N5 レベル相当問題 (模 擬 テ ス ト) 言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	E.エルデネツェツェグ、D.ムンフトヤ、P.マラル、P. アルタンブラグ、O.ブルガン、B.ブマンツェツェグ、D.ツァツラル	477
17	日本語コース運営会議	2024/01/24	2023 年秋期コースの振り返り、各コースリーダー＆運営担当者による報告と 2024 年春期コース実施に関する情報共有と意見交換、日程＆担当講師時間割の確認など	司会進行：P.マラル 議事録：栗山知之 会議出席者：当該コース担当講師	13
18	日本語コース運営会議	2024/05/31	2024 年春期コースの振り返り、各コースリーダー＆運営担当者による報告と 2024 年夏期コース実施に関する情報共有と意見交換、日程＆担当講師時間割の確認など	司会進行：E.エルデネツェツェグ 議事録：S.アマルバヤスガラン 会議出席者：当該コース担当講師	13
19	日本語コース運営会議	2024/08/30	2024 年夏期コースの振り返り、各コースリーダー＆運営担当者による報告と 2024 年秋期コース実施に関する情報共有と意見交換、日程＆担当講師時間割の確認など	司会進行：P.アルタンブラグ 議事録：O.ブルガン 会議出席者：当該コース担当講師	7
20	2024 年春期コースプレースメントテスト	2024/01/12-2024/02/20	総合 2～6 コースの受講資格確認のためのプレースメントテスト	D.ムンフトヤ、P.マラル、O.ブルガン	55
21	2024 年秋期コースプレースメントテスト	2024/09/04-2024/09/24	総合 2～6 コースの受講資格確認のためのプレースメントテスト	D.ムンフトヤ、P.マラル、S.アマルバヤスガラン、D.ツァツラル	58
22	JF 講座講師研修	2024/02/27、03/12、04/09、05/22、06/06、	MOJC で JF 講座を担当する全日本語教師を対象とした、日本語教育や教授法などに関する知識と知見の蓄積、共有。習得したことを	鶴田靖行、栗山知之、O.ブルガン、S.アマルバヤスガラン	74



		10/23、 11/06、 11/27、 12/19、 計 9 回	自身の授業・実践に活かす。		
23	JFT-Basic（国際交流基金日本語基礎テスト）ガイダンスセミナー	2024/02/13 、5/29、 08/22、 10/24 計 4 回	JFT-Basic ガイダンス。テストの目的、対象、形式、画面イメージ構成、レベルの目安、テスト登録や結果の通知について説明。また、サンプル問題の練習、質問応答、『いろどり』オンラインコースの使い方の説明を実施。	P.アルタンブラグ	117
24	いろどり 1 日体験授業	2024/02/16	『いろどり 生活の日本語』（入門 A1 レベル）の第 3 課の体験、授業の振り返り、質疑応答、教科書の使い方や特徴、いろどりオンラインコースの紹介	P.アルタンブラグ	21
25	『いろどり 生活の日本語』教科書を使った教授法セミナー	2024/01/10- 2024/01/16	『いろどり 生活の日本語』教科書の概要&特徴、体験授業とふり返し、模擬授業、全体フィードバック	鶴田靖行、 佐藤慶一、 P.アルタンブラグ	16
26	『いろどり 生活の日本語』教科書を使った教授法セミナー	2024/06/12- 2024/06/18	『いろどり 生活の日本語』教科書の概要&特徴、体験授業とふり返し、模擬授業、全体フィードバック	鶴田靖行、 栗山知之、 P.アルタンブラグ	11
27	『いろどり 生活の日本語』教科書を使った教授法セミナー	2024/09/11- 2024/09/17	『いろどり 生活の日本語』教科書の概要&特徴、体験授業とふり返し、模擬授業、全体フィードバック	鶴田靖行、 栗山知之、 P.アルタンブラグ	13
28	「いろどり日本語オンラインコース」体験会	2024/02/23 、06/05、 08/26、 10/29 計 4 回	『いろどり 生活の日本語』教科書の普及と国際交流基金日本語基礎テスト JFT-Basic のモンゴル人合格者を増やし、合格率を高めるため、「いろどりオンラインコース」の概要&使い方を説明。入門編第 3 課を実際に操作しながら体験。	P.アルタンブラグ	72
29	『いろどり 生活の日本語』教授実践報告会	2024/12/14	『いろどり』教科書の概要&特徴について、『いろどり』を実際に授業で活用している 4 名の日本語教師による実践報告と質疑応答、いろどり活用のヒントと JFT-Basic とのつながりについて	発表者： “ジ・ソンケイ”日本語教育センター Kh.デルゲルダライ、“はげみ”教育センター N.ツェデンソドノム、モンゴル国立大学アジア研究学科 Ts.オノン、国際交流基金 鶴田靖行、モンゴル日本人材開発センター D.ムンフトヤ、P.アルタンブラグ	33
30	JF 公募プログラム説	2024/11/12	MOJC 特定技能関連日本語	森山賢美(在モンゴ	107



	明会 ※国際交流基金、在 モンゴル日本国大使 館との新規共催事業		事業及び『いろどり 生活の 日本語』、「生活・就労のた めの日本語教育機関支援 (助成)」、「海外日本語教師 研修」を紹介し、「JF 公募プ ログラム」の手続きを説 明。また、JF 助成(特定技 能関連)採用者による経験 談を披露。	ル日本国大使館)、 赤澤智輝(国際交流 基金)、 Ts.アムガラン (Shintooyoobashi 株式会社)、 P.アルタンブラグ (モンゴル日本人材 開発センター)	
31	「日本での仕事や生 活に役立つ日本文化 と生活情報の教え 方」セミナー ※新規事業	2024/06/16	日本での就労・生活希望 者、日本語教育機関の日本 語教師を対象に、日本の文 化や生活情報を授業に取り 入れるための工夫や、すぐ に授業で使える動画などの 教材を紹介。日本で生活す る上で必要な防災情報の入 手方法についても言及。	鶴田靖行	45
32	日本語教育機関コン サルティング活動及 び日本語教育相談 (G&DDevelopment 附属 Mica-Mongolia 有限会社、GTN- Mongolia 有限会 社)	2024/03/17	機関概要、日本語コース概 要、使用教材、カリキュラ ム、教授法等についてイン タビュー。	松本毅(国際交流 基金)、鶴田靖行、 栗山知之、P.アル タンブラグ(モン ゴル日本人材開発 センター)	2
33	日本語教育機関コン サルティング活動及 び日本語教育相談 (モンゴル国立大学 アジア研究学科)	2024/03/19	『いろどり 生活の日本語』 を使用して大学で会話や聴 解を教えている教師の授業 見学及びフィードバック。	鶴田靖行、 P.アルタンブラグ	1
34	日本語教育機関コン サルティング活動及 び日本語教育相談 (ドルノゴビ県、サ インシャンド市、 B&T 日本語学校)	2024/04/06	学校見学、教科書選択につ いて、個人レッスンを中心 とした JLPT 対策授業につ いて	P.アルタンブラグ	1
35	日本語教育機関コン サルティング活動及 び日本語教育相談 (JICA 海外協力隊 日本語教育隊員、モ ンゴル国立教育大学 派遣)	2024/06/26	大学での試験・評価方法に ついてアドバイス	鶴田靖行	1
36	日本語教育機関コン サルティング活動及 び日本語教育相談 (第 32 番学校)	2024/07/04	小学校の選択科目で使用する カリキュラムと教材につ いて、『できるモン』教科書 の紹介および『できるモン』 教科書を使用したカリ キュラムのモデル例の提案	鶴田靖行、 P.アルタンブラグ	1
37	日本語教育機関コン サルティング活動及 び日本語教育相談 (Tushig Tsuyoshi 株式会社)	2024/11/28	『いろどり』教科書の長所 や効果的な教え方、カリキ ュラム作成、『いろどり』を 使ったコースにおける JLPT 対応方法、JFT-Basic の活用 方法等について	鶴田靖行、 P.アルタンブラグ	4
38	Bridge to Dornogobi	2024/04/04-	日本留学、日本政府奨学金	P.アルタンブラグ	154



	教育フェアでのブース出展	2024/04/06	を紹介、日本語教育・日本語試験を説明		
39	春の日本留学フェアでのブース出展	2024/04/20	日本語教育・日本語試験を説明	P.アルタンブラグ、P.マラル	100
					2691

表-14：2024 年共催事業

No.	事業名	期間	内容	発表者/講演者/ 担当者（敬称略）	参加者数
1	第 119 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/01/20	発表テーマ： ①「会話練習後の学習者同士のフィードバックについて—JF 研修での学び—」 ②「スピーチコンテストの 10 年間の歩み」	発表者： ①P.マラル（モンゴル日本人材開発センター日本語教師） ②L.ジャブザンドラム（モンゴル日本青年交流支援センター事務局長）	13
2	第 120 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/02/27	発表テーマ： ①「雨は「降りそうになり」？「降らなそう」？「降らなさそう」？—コーパスを使って考えてみた—」 ②「聞き手・読み手を意識できる学習活動の試み」	発表者： ①牧久美子（名古屋大学日本法教育研究センター日本語教師） ②八尾由希子（名古屋大学日本法教育研究センター特任講師）	23
3	第 121 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/03/16	発表テーマ： ①「ひらがな学習におけるニーモニック記憶術」 ②「中学校における第 3 言語の教え方—日本語を例に—」	発表者： ①B.ウーリーントヤ（ホビー学校日本語教師） ②D.デルゲルスレン（セルベ学校日本語教師）	23
4	第 122 回日本語教育研究会例会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/04/15	発表テーマ： ①「モンゴル国立大学における日本語会話クラブの活動」 ②「MUDIE システムを使用した日本語初級授業の教え方」	発表者： ①荒川芳恵（モンゴル国立大学日本語教師、JICA 海外協力隊） ②U.アノダリ（Nago Ulaanbaatar 学習センター日本語教師）	19
5	第 123 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/05/20	発表テーマ： 「教師会の 1 年間の活動報告」（2023 年 6 月から 2024 年 5 月までの日本語教師会活動報告 & 質疑応答）	発表者： E.バトジャルガル（モンゴル日本語教師会会長）	14
6	第 124 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/09/21	発表テーマ： ①「ホブド県におけるモンゴル初の防災カルタ作成と防災教育の高まり」 ②「日本語教師会の今年度	発表者： ①B.ナルマンダフ（モンゴル日本語教師会） ②E.バトジャルガ	24



			の予定」	ル（モンゴル日本語教師会会長）	
7	第 125 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/10/19	発表テーマ： 「8～10 歳の子ども向け日本語コースの試み」	発表者： P.マラル（モンゴル日本人材開発センター日本語教師）	18
8	第 126 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/11/23	発表テーマ： ①「日本語における授受補助動詞の習得に関する研究ーモンゴル人日本語学習者を対象にー」 ②「第 8 回漢字ナーダムを終えて」	発表者： ①Gao Wulan（モンゴル国立教育大学博士課程） ②B.ゲレルマー（新モンゴル小中高一貫学校日本語教師）	16
9	第 127 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2024/12/21	発表テーマ： ①「高専生を対象としたプロジェクトワーク実践報告」 ②「IT ツールを取り入れる授業とは？」	発表者： ①桜井ちよこ（モンゴル技術カレッジ連盟：JICA 海外協力隊、日本語教師） ②松尾文（モンゴル国立教育大学：JICA 海外協力隊、日本語教師）	15
10	「第 30 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」1 次選考作文原稿審査	2024/10/26	高校の部と大学の部の各部門について、1 次選考の原稿審査を行い、高校生 46 名のうち 21 名が、大学生 16 名のうち 13 名が、それぞれ勝ち残る テーマ：高校の部「挑戦してみたいこと」、大学の部「責任感」	実行委員会メンバー	34
11	「第 30 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」2 次選考面接審査	2024/11/02	1 次選考を勝ち抜いた高校生 16 名、大学生 13 名が 2 次選考の面接審査に参加、高校生 10 名、大学生 8 名が本選に選出。	実行委員会メンバー	34
12	「第 30 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」本選リハーサル	2024/11/14	「第 30 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」本選前のリハーサル	実行委員会メンバー	25



13	「第30回学校対抗日本語スピーチコンテスト」本選 共催：在モンゴル日本国大使館、モンゴル日本語教師会、モンゴル国立科学技術大学、モンゴル・日本人材開発センター、独立行政法人国際交流基金 協賛：在モンゴル日本人会、モンゴル日本商工会	2024/11/16	予選を勝ち残った高校生10名、大学生8名がスピーチを披露。 テーマ：高校の部「挑戦してみたいこと」、大学の部「責任感」	実行委員会メンバー	113
14	「2024“新潟賞”日本語スピーチコンテスト」リハーサル	2024/09/28	「2024“新潟賞”日本語スピーチコンテスト」の事前リハーサル	スピーチコンテスト運営メンバー	8
15	「2024“新潟賞”日本語スピーチコンテスト」本選 主催：公益財団法人新潟県国際交流協会 共催：モンゴル・日本人材開発センター、モンゴル・新潟友好協会 後援：在モンゴル日本国大使館、特別行政法人国際協力機構モンゴル事務所、新潟県、新潟県モンゴル交流協会	2024/09/28	「2024“新潟賞”日本語スピーチコンテスト」の本選 テーマ：私が感じる日本の魅力	スピーチコンテスト運営メンバー	53
					432

表-15：日本語コース受講者数

	2023 年	2024 年
春期	205	237
夏期	120	139
秋期	212	228
合計	537	604

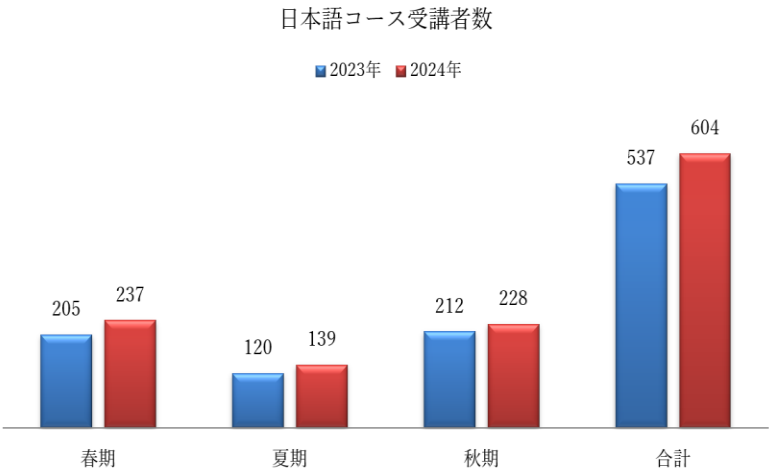




表-16：特別講座参加者数

	2023 年	2024 年
特別講座	1,190	2,691

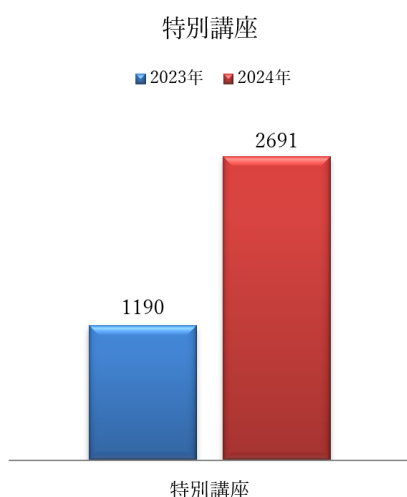
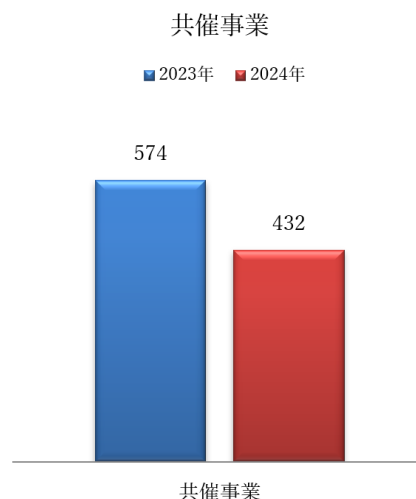


表-17：共催事業参加者数

	2023 年	2024 年
共催事業	574	432



II. コラム

1. 子ども向け日本語講座（8～10 歳）

本講座は夏休み中に日本語を勉強したい子供や日本語コースに通わせたい保護者の大きな需要に応じて毎年開講している。本講座の対象はゼロから日本語を学びたい子供で、身近なテーマについて簡単な会話ができるようになること、ひらがなの読み書きができるようになることを目指している。2024 年は7月18日～8月20日、全20回計30時間にわたって実施した。受講者は16名で全員が修了できた。

本講座が通常コースと最も異なる点は、子供が集中力を保ちつつ楽しみながら学習できる工夫を盛り込んで毎年アップデートしていることである。今回はまず、休み時間の過ごし方を大幅に変更した。室内の壁に塗り絵用として忍者など日本文化に関わりのある絵を貼り、受講者が自由に塗れるようにした。テーブルの上にも日本の遊び道具を置き、けん玉、コマ回し、だるま落としなどを楽しめるようにした。また、日本文化に興味を持ってもらうため、コース中に文化体験を2回実施しているが、今回は新たに水墨画体験と折り紙による人形しおり作りを実施した。

そのほか、今回は日本人との交流の機会を多く持つことができた。文化体験の人形しおり作りはジャパンフェスティバルに参加したアイドル36名と一緒にいった。



さらに、JICA 九州による教師海外研修の参加教員 8 名が授業を見学し、受講者が学習の成果を披露したり自由に交流したりした。

こうしたこともあり、本講座に参加した子供や保護者は例年以上の達成感と満足感を得て修了できた。子供達が今後も日本語に興味を持ち続け、いつの日かモンゴル・日本センターの日本語コースで再び出会えることを願っている。



写真21. 「子ども向け日本語講座 (8～10 歳)」

2. 「PPT を中心とした日本語教材の作り方」実践講座

本講座は 2024 年の新規講座のひとつであり、日本語教師の教授法ブラッシュアップを目的として開講した。近年のモンゴルでは日本語教育においても PPT を用いた授業実践が広まっており、PPT 作成は日本語教師にとっても重要なスキルとなっている。そこで、本講座では PPT の便利な機能や作成テクニック、さらに会話、文法、文字語彙の各授業に合わせた PPT の作り方を紹介した。

開講期間は新学期直前で日本語教師が参加しやすく教授法に対する関心も高まっ



ている時期を選び、8月13日から8月20日の全6回計18時間にわたって実施した。

受講者は11名で、ベテラン日本語教師から日本語教師を志す方、PPTについて習熟している方からパソコン自体ほとんど使ったことがない方まで様々だった。結果として10名が修了し、1名が出席日数が足りず修了できなかった。

本講座の前半4回では、PPT作成について講義形式で紹介しながら、受講者に各自のパソコンで体験してもらった。後半2回では、受講者にPPTを使った模擬授業をしてもらった。実際に近い形でPPTを作りながら進めたので、自分の授業にも取り入れられるところが多かったのではないと思われる。その反面、受講者間で日本語教授経験、PPT技術の差が大きかったので、受講者はいずれかの面を負担に感じていたように思う。そのため、次回は講座の進め方をできるだけ受講者の負担にならない形になるよう修正する必要がある。

受講生11名のうち、初中等教育機関所属の6名に対して、モンゴル日本語教師会が受講料を全額補助した。モンゴル日本語教師会の支援に対し感謝申し上げる。



写真-22. 「PPTを中心とした日本語教材の作り方」実践講座の様子

3. 「中級レベル読解講座－選択式問題編」

新規講座として中級レベル（日本語能力試験 N2, N1 程度）の読解力の向上を目指した「中級レベル読解講座－選択式問題編」を開講した。コースは1回2時間の全8回16時間で、受講者は14名（全員修了）。属性は高校生、大学生、社会人、日本語教師などで、日本語レベルはN3からN1までと幅広い層から受講者が集まった。

カリキュラムは、まず前半の3回で読解に必要な基礎力を身につけるための講義と練習を行った。具体的には、読解の「授業」と「試験」の違い、選択式試験問題



の特徴、試験で測ろうとしている力、抽象化能力と論理的思考力、対比などを取り上げた。第4回目からは、『日本語能力試験 公式問題集 第二集』のN2とN1の問題を使って、問題形式別の問題演習に取り組んだ。

このコースで工夫した点は、N3レベルの受講者がN1レベルの問題に取り組めるよう問題練習の前に実際の問題を簡略した準備問題を用意したことである。これにより、N3レベルの受講者も問題なく授業についていけたのではないかと思う。一方、反省点は、ペアワークやグループワークをうまく機能させられなかったことである。若い受講者の中にはペアワークにあまり積極的ではない者もありペアを組ませるのにやや神経を使った。グループワークが少ないとどうしても授業が一方的になりやすいため、今後このような読解をテーマにしたコースを開講する場合は、お互いに学び合えるクラス環境をいかに作るかが課題になりそうだ。

最後に、初中等教育機関に所属している教師に対して、モンゴル日本語教師会から受講料の全額補助が行われた。モンゴル日本語教師会の支援に対し感謝申し上げる

4. 「小型&中型日本文化体験」特別教室

モンゴル・日本センターの「総合日本語コース」の特徴の一つは、文化体験授業である。この文化体験授業は、2024年からコース内で実施するだけでなく、日本語や日本文化に興味を持つすべてのの方々に向けたイベントとしても実施するようになった。

こうした外部向け日本文化体験の1回目として、第115番学校3年D組の生徒を対象に、「男の子の祭り」、「一緒に作りましょう（ガールズデー）」、「日本の遊び」という3つの活動を実施した。生徒達はこれらの活動で日本文化を体験したり、図書室を見学するため、モンゴル・日本センターを訪れた。「一緒に作りましょう（ガールズデー）」では、女子生徒が好きな色の材料を使って髪飾りを作ったり、日本の折り紙を折ったり、かわいいしおりを作ったりしながら、ものづくりの知恵について楽しく学んだ。「日本の遊び」では、コマ回しなどを体験し、それぞれの遊びの特徴や意義について意見を言いあった。生徒達はまだ小さかったが、運動不足、ストレス、疲労解消、集中力発揮、姿勢のバランス、忍耐力などについて積極的に話す姿がとても微笑ましかった。このプログラムで異なる文化や環境に



触れ、新しい経験を積み重ねたことで、子供達の視野を広げる一助になることを願っている。



写真-23. 小型&中型日本文化体験

～受託事業及び受託コースについて～

1) 特定技能関連業務

2019年から国際交流基金の委託により、特定技能制度の中でも日本語教育に関わる事業を実施している。本事業は主に3つに分かれている。

・「国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic) 関連業務」

JFT-Basic の認知度を高めるとともに受験者数及び合格者数を増やすため、JFT-Basic の実施日程に関する情報を常時提供し、JFT-Basic に関する問い合わせにも対応している。加えて、「JFT-Basic 国際交流基金日本語基礎テストガイダンスセミナー」を4回実施し、計117名に試験の概要、申込方法、対策教材等について紹介した。また、『『いろどり日本語オンラインコース』体験会』を4回実施し、計72名に「いろどり日本語オンラインコース」を実際に体験してもらった。

・「現地の教師支援活動」

『いろどり』教科書や日本文化・習慣等に関する教授法の普及や教授経験の共有を行っている。第一に、『『いろどり 生活の日本語』教科書を使った教授法セミナー』を3回実施し、計40名に『いろどり』教授法を紹介して模擬授業をしてもらった。第二に、主に日本語教師を対象として、『『いろどり』一日体験授業』を2月に実施し、21名が『いろどり』の授業を体験した。第三に、「日本での仕事や生活に役立つ日本文化と生活情報の教え方」セミナーを3月に実施し、45名に日本文化・習慣



の教え方を紹介した。また、『『いろどり 生活の日本語』教授実践報告会』を 12 月に実施し、4 機関の『いろどり』教授経験を参加者 33 名と共有した。そのほか、国際交流基金、在モンゴル日本国大使館との共催で、日本語学校や送出機関向けに「JF 公募プログラム説明会」を 11 月に開催し、来場者 107 名に公募プログラムの申請方法、注意事項等について紹介した。

・「日本語学校や送出機関の情報収集、コンサルティング活動」

日本語教育機関調査リストの情報更新を行うとともに、リスト中の機関に対して特定技能制度関連の日本語教育活動や JF 公募プログラムに関する情報を随時提供している。さらに、6 機関と日本語教育相談を行い、コンサルティングに努めた。

2) 「2024“新潟賞”日本語スピーチコンテスト」

2024 年は 9 月 28 日（土）に実施した。当コンテストは隔年開催で、2024 年で 5 回目にあたる。開催目的はモンゴルにおける日本語教育の発展、そしてモンゴル国と新潟県との更なる交流促進を図ることであり、日本語を学び新潟県に関心を持つモンゴル人学生が対象である。主催は公益財団法人新潟県国際交流協会、共催はモンゴル・日本人材開発センター及びモンゴル・新潟友好協会、後援は在モンゴル日本国大使館、国際協力機構モンゴル事務所、新潟県、新潟県モンゴル交流協会である。2024 年はテーマが「私を感じる日本の魅力」であり、5 大学 5 専攻 8 名が出場して、最優秀賞 3 名が副賞の新潟旅行の権利を得た。尚、出場者には MJ AGRITECH 社が参加賞を提供した。当コンテストは対面・Live 配信のハイブリッド方式で実施し、来場者数 53 名、Live 配信視聴者数最大 28 名であった。動画は 9 月 30 日(月)9 時の時点でリーチ数 1881 回であり、現在も公開中である（下記リンク参照）。

<https://www.facebook.com/MoJCenter/videos/487990520882470>

3) 「モンゴル JDS 来日準備日本語講座」

2021 年より毎年受託していて、2024 年で 4 回目である。今回は 4 月 15 日から 6 月 21 日までの 2 カ月強、全 30 回計 60 時間にわたって開講した。受講者は JDS プログラムで日本の大学院に留学する予定の 14 名である。2024 年も例年同様、『いろどり 生活の日本語 入門 (A1)』を教科書として使用したが、授業時間を減らすことになり、教科書のトピックを絞って学習した。また、コース中盤に日本文化の書道



を体験し、最終日は日本人ボランティアとのフリートークを行った。最終的には受講者全員が無事に修了でき、2024年夏に日本へ旅立った。

4)「京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座 2024」

2020 年より毎年受託していて、2024 年で 5 回目である。受講者は Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP) 予備教育履修生として合格した学生であり、本講座は渡日前の日本語予備教育にあたる。2024 年は 6 月 17 日から 8 月 14 日まで、全 22 回計 67 時間に渡って開講した。今回も例年同様、受講者は 1 名だったが、初めて初級レベルの日本語を教えることになった。そのため、主教材として『まるごと 日本のことばと文化 入門/A1』（活動・理解）を使用し、それに合わせてシラバスや教材を作成した。その結果、受講者は非常に優秀な成績で修了した。

5)「日本語観光ガイド上級コース」

H&A Friendship 社をスポンサーとして、今回初めて実施した。期間は 2 月 19 日から 3 月 23 日、全 15 回計 37 時間にわたって開講した。モンゴル・日本センターの日本語観光ガイド向け講座としては「日本語観光ガイド養成実践講座」のひとつ上のレベルにあたる。主な対象は日本語観光ガイド経験者で、観光ガイドとしての日本語能力をブラッシュアップすることが目的である。受講者は 16 名で、そのうち 15 名が修了できた。本コースでは観光に関わる各トピックについて、ワークショップやグループ活動などによるアウトプットを重点的に行うとともに、歴史、文化、日本語等の専門家を招いて講義をしていただいた。



Ⅲ. 受講生の声

子ども向け日本語講座(8-10 歳)」感想

皆さん、こんにちは。

私は E. アリグンソンドルです。夏休みの間、子供向け日本語コースに参加して、日本語を学ぶことにしました。というのも、私のいところであるゲゲーレンが、ジュリア叔母さんと一緒に日本で生活して勉強するために渡航したからです。ゲゲーレンが日本語を学んで、兄と私にビデオコールをする時、私たちが理解できずに彼を悲しませてしまうのではないかと心配していました。また、兄も小学校を卒業してから日本に留学すると母が言いました。



写真 24. 2024 年夏期「(8-10 歳) 子ども向け日本語講座」

E. アリグンソンドル

それで、私たちの家族みんなが日本語を学ぶことにしたのです。コースで一番楽しかったのは、先生がとても楽しい方法で教えてくれたことです。ゲームをしながら、歌を歌いながら、日本語の文字を読むことができるようになり、日本語で自己紹介できるようになったことが嬉しいです。先生方もいつも笑顔でとても親切でした。今では、私はアプリを使って勉強したことを忘れないよう、自分で復習してできるようになりました。大きくなったら、日本語の上級クラスを受けて、しっかりと勉強して、兄と一緒に日本に留学するつもりです。コースが終了した時、とても寂しく感じました。先生方と別れたくなかったし、クラスメートたちと一緒にもっと勉強したかったです。でも、本を読むために図書室に行けば先生に会えると言われたので嬉しいです。

2024 年夏期「(8-10 歳) 子ども向け日本語講座」 E. アリグンソンドル

皆さん、こんにちは。

私の家族は日本と関係が深く、何年にもわたって関わりを持ってきました。将来、娘と息子に日本で教育を受けさせ、その教育が未来に役立つことを考えています。



子ども達がどれくらい日本語に興味を持ち、学び続ける意欲があるかを見極めるため、さまざまな学習センターを調べ、モンゴル・日本センターに通わせることに決めました。授業内容は、子どもたちを退屈させず、強制せず、楽しく、興味深い方法で行われており、そのおかげで子ども達は日本語と日本の文化に興味を持ち、学び続ける意欲を持って修了することができました。

とても前向きで優しく、優れた教師によって外国語学習の基盤を築いていただき、感謝しています。子ども達は、どんなことでも無理なく、楽しく便利な方法で学べることを理解したようです。私の家族は、子ども達の学習意欲をサポートし、次のステップの学習を受けさせることを楽しみにしています。また、友人にも自信を持ってモンゴル・日本センターの講座を勧めようと思います。

E.アリグンソンドルの保護者 D.ツェレンピル

「子ども向けまるごとコース」感想

私は C.ツェレンフーです。両親は日本語を完璧に話すだけでなく、父は東京に住んでいます。これは私が日本に興味を持ち、そこに行きたいという夢を抱くきっかけとなりました。その夢を実現するための第一歩は、日本語を学び始めることでした。最初はある日本語学習センターに通ってみましたが、私はそこでの環境や指導方法に満足できなくて、退屈に感じました。このことについて母や家族の人と話し合い、モンゴル・日本センターの子供向け「まるごとコース」に参加することを決めました。



写真 25. 2024 年秋期「子ども向けまるごとコース」
C.ツェレンフー

モンゴル・日本センターの扉を初めて開けた瞬間、温かい雰囲気、優しい先生方、心温かいスタッフが迎えてくれたその光景は、今でも私の心に鮮明に残っています。授業の進め方や先生方の面白い教え方、日本風の環境は、まるで日本国に歓迎されているような感覚を与えてくれました。また、日本文化体験の授業は私の好奇心を掻き立てました。使用される教材はカラフルで、理解しやすく、面倒くさがりの私の心をも惹きつけました。特に、文字を覚えるための簡単なアドバイスは本当に素晴らしいかったです。



家はモンゴル・日本センターから遠いのですが、その環境に行くために毎日喜んで通っていました。そこで過ごした時間は本当に懐かしく思い、これからも学び続けたいと思っています。この経験は、私にとって日本語を学ぶだけでなく、夢を実現するための力を与えてくれる素晴らしいものでした。

2024 年 秋期「子ども向けまるごとコース」C.ツェレンフー

～モンゴルにおける日本語学習環境～

私は G.ムングンツォージと申します。公立機関でエンジニアとして働いています。初めてモンゴル・日本センターを訪れたとき、ウランバートルでも日本のように整理整頓が行き届いた環境を作ることができるのだと感心しました。

私は日本人の専門家と一緒にプロジェクトを実施することになり、そのために日本語能力を向上させる必要がありました。総合日本語コースを受講することで、まるで日本で日本語を勉強しているような感覚を味わえました。このコースは、受講生ひとりひとりのために心を込めて指導して下さる親切な先生方、聞く・話す・読む・書く能力をバランスよく伸ばせる優れた学習環境、そしてスケジュールや教科書の充実など、質の高い内容が揃っていました。

スケジュールの中で一番面白かったのは、さまざまなテーマで自分についての作文を書き、それをまとめて「ミニ本」を作ったことです。日本語だけでなく、日本文化にも触れる素晴らしい機会を与えていただき、日本人の先生が日本語を教えてください、このコースの大きな魅力の一つです。他の日本語学校では 1 名または 2 名の先生が授業を担当していることが多いようですが、私が受講した週 3 回の日本語コースでは、それぞれ異なる 3 名の教え方の上手な先生が担当して下さり、それがとても印象的でした。モンゴル・日本センターの皆様、そして親切な先生方に心から感謝しております。皆様の更なるご活躍をお祈り申し上げます。また、日本への留学や就労を目指して日本語を勉強しているクラスメートの皆さん、そしてモンゴルの未来を担うかわいい子どもたちのご成功を心より願っています。モンゴ



写真 26. 2024 年秋期「総合日本語 1 コース C クラス」
G.ムングンツォージ



ル・日本センターで初級日本語コースを修了し、次のコースへ進めることを嬉しく思います。

2024 年秋期「総合日本語 1 コース C クラス」受講生 G.ムングンツォージ

「総合日本語 2 コース」感想

私が日本語を勉強しようと思った最初のきっかけは日本文学だった。芥川龍之介、江戸川乱歩ら日本の作家の作品に惹きつけられた時から日本文化に興味を持ち始め、日本語を勉強をしたいという想いが湧いてきた。

モンゴル・日本センターの日本語コースは、日本語の講義や試験の連続という単調なパターンではなく、文化体験などを加えて学習者の意欲をなるべく高めたり、日本国や日本文化を愛しながら興味深く学ぶ機会を提供したりしている点が私の心を打った。まるごとのカリキュラムはすべての面でバランスが整っていて魅力的だった。これまでの私は新しいことに挑戦してもそのたびに途中で諦めたり、意欲がなくなったのに無理をして続けたりすることが多かった。しかし、モンゴル・日本センターの日本語コースは、そうした気持ちになりそうな時にどうして学ぼうと思ったのか思い出したり、気を引き締め直したりさせてくれた。そのような興味を引いてくれる「生活と文化」や「文化体験」などの授業があったおかげで、知識をただ覚えるのではなく、その奥にある意味を深く広く考えながら一生懸命勉強できている。

私はただ日本語を勉強して興味を持って終わるのではなく、将来自分の好きな作家の作品を原文で読んで理解するため、そして日本の生活リズムや微妙なニュアンスまで見たり聞いたりすることはもとより、それを自分の知性の中に生かすために日本語を学んでいる。モンゴル・日本センターがこの歩みのための大きな道しるべになってくれていることに心より感謝申し上げます。



写真27. 2024 年秋期「総合日本語 2 コース」
Ch.エンフマラル

2024 年秋期「総合日本語 2 コース」 Ch.エンフマラル



～努力を続ける人は必ず成功を手にする～

皆さん、こんにちは！

私は E.ウルトナサンです。高校生の頃、夏休みに外国語を学習するという目標をたてて、日本語学習センターの日本語コースに通ってみました。コースが終わってからも日本語学習を続けたいと強く思っていたのですが、私以外に続けて勉強したい人がいませんでした。先生方にモンゴル・日本センターを紹介してもらってから、このセンターのコースをステップアップしながら学び続けています。モンゴル・日本センターでは優秀な成績を残した受講者 2 名に受講料割引券が与えられますが、最初に受講し



写真 28. 2024 年秋期「総合日本語 3 コース」E.ウルトナサン

たコースを修了した際、この割引券をいただく機会に恵まれました。それによってこれからも努力して学び続ける意欲とモチベーションを与えてくれたと言えます。コースをステップアップしていく途中で私の大学生活が始まり、日本語学習が一時中断してしまいましたが、日本語を学びたいという気持ちが常に心の中にありました。そのため、迷うことなく再びモンゴル・日本センターのコースに通い始めました。今、振り返ると、それは本当に正しい決断だったと感じています。

語学学習または他国の文化への関心、そして世界を知りたいという思いの基盤をしっかりと築いてくださったモンゴル・日本センターのスタッフの皆様、特に有能で優しい先生方に心より感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

2024 年秋期「総合日本語 3 コース」E.ウルトナサン



～モンゴル・日本センターでの学習～

2022年から2023年、1年間を無駄に過ごさない目標を立てて、私は日本語を学ぶことを決めました。日本の作家の小説を夢中で読んでいたこともあり、興味を追いかけて勉強を始め、モンゴル・日本センターの講座に申し込みました。

最初の授業：

2023年2月6日、春期コースの最初の授業でした。教室に入ると、机の上に生徒の名前と番号が書かれたネームプレートがあり、ピンク色の本がきれいに並べられているのを見て、とても驚きました。

これまでこんなに整理された授業に参加したことがなかったので、非常に印象的でした。授業が始まり、教科書を開くと、全く知らない文字が目の前に広がっていました。

日本語で書いてあることは分かっていたのですが、どう読んでいいのか、どう発音すればいいのか分からず、戸惑ってしまいました。他方、私以外のクラス全員が少なからず日本語の知識があり、文字を学習済みの人が多くいると感じました。後で聞いたところ、アニメを見ていたので「こんにちは」ぐらいは知っている子たちだったようです。何事も始まりは簡単ではありません。家に帰って課題を見たとき、ほとんど何も理解できず、すぐに諦めそうになりました。その中でも、文字を書き写す練習があったことはよく覚えています。書き写すといってもほとんど絵を描くようなもので、「文字も教えてもらっていないのに、どうしてこんなに難しいことをさせられているんだろう」と思いながらも、頑張って頑張って文字と漢字を混ぜながら紙にたくさん書いていくうちに、すごく達成感を感じました。それからは一度も授業を欠席せず、熱心に取り組みました。

今では、自由に書いたり、読んだり、必要なことを話せるほどの日本語を習得しました。人の話をよく理解でき、しっかりと聞き取れるようになった自分を嬉しく思っています。「日本人はどう説明しているんだろう」と思うことがあれば、それを日本語で調べるようになりました。受講中の自分のポートフォリオを時々見返し



写真29. 2024年秋期「総合日本語4コース」S.オユン



て自分に誇りを感じることがあります。今では、それは使わなくなったのですが、捨てようとしても「捨てられない」たくさんの思い出が大切に保たれているそのポートフォリオを記念に残しています。

モンゴル・日本センターで学んだことは数えきれないほどあります。授業でクラス全員の前に発表することが多かったため、私は人前で自分を表現し、自分自身を持つようになりました。また、先生方の時間の管理方法や授業の進め方を学んだことが、その後、自分が授業を教えるとき、大変役に立ちました。日本語を学ぶだけでなく、日本の文化や責任感のある生活様式を自分に取り入れることができたと思います。

モンゴル・日本センターは、私にとって単なる教育機関ではなく、私の人生に変化をもたらした橋渡しのような存在でした。言語の知識や文化的な理解に加え、自分を知るための道を示してくれた場所でした。私は日本語を学んだだけでなく、自分の過ちを克服する力を持つようになったことに気づきました。

あの小さくて温かい教室、親切で礼儀正しい職員、心のこもった授業、新たな挑戦、すべては私にとって忘れられない素晴らしい思い出となりました。日本語を学ぶことが目標でしたが、今ではもっと勉強したいという意欲がさらに高まりました。日本語を学び始めたあの春の朝が、私に新しい人生の始まりをもたらしてくれたことを感じています。私の言語学習の旅は、自分を発見した素晴らしい経験となりました。

2024 年秋期「総合日本語 4 コース」S.オユン

～我慢強く、毎日一步一步前進しなさい～

日本語を学び始めるという決断は、私の人生で最も重要で適切な決断の 1 つだったと、今、より強く実感しています。最初は外国語の学習が簡単そうに思いましたが、実際に学び始めると、それが積極的で絶え間ない努力と忍耐を求められることを実感しました。



写真 30. 2024 年秋期「総合日本語 5 コース」
E.チンゲーン



講座に参加している間、先生方のきめ細やかなやり方や教え方に深く感動し、努力しようという意欲がますます湧いてきました。先生方は、単に言語の知識を与えるだけでなく、日本の文化や生活様式を面白く、分かりやすく伝えてくれたので、とても励まされました。

受講中、「Can-do」システムに基づいた課題を進めることで、自分が一步一步成長していることを実感しました。以前は自分に自信がなかった私を、先生方やクラスメートの皆さんがサポートし、応援してくれたことが大きな助けとなりました。

日本語を勉強し始めたことで、ただ新しい言語を学んだだけではなく、人生に対する姿勢が変わり、これからももっと努力することが大切だと理解しました。

2024 年秋期「総合日本語 5 コース」E.チングーン

「日本語教育講座」感想

こんにちは。私は 2024 年秋期「日本語教育講座」を修了したオヤングです。家族とともに日本で 7 年間働き、生活していましたが、現在はモンゴルに帰国しています。帰国後、多くの人々と出会い、日本に長年住んでいた人たちから「日常的な日本語を教えてほしい」と頼まれることが増えました。しかし、私は日本語を教えた経験がなかったため、最初はその依頼を断っていました。そうした人には、モンゴル・日本センターの総合日本語コースを受講することを勧めていました。



写真-31 2024 年秋期「日本語教育講座」 N.オヤング

その後、国際交流基金の日本語専門家が担当する日本語教授法の講座があることを知り、すぐに申し込みました。この講座を通じて、JF スタンダードが「相互理解のための日本語」という理念に基づいていることを学びました。言語を通じて相互理解を深めるためには、以下の 2 つの能力が重要です。

1. 課題遂行能力：その言語を使って実際の目的を達成する能力
2. 異文化理解能力：他国の文化を理解し、尊重する能力

私はこの講座で、これらの理念に基づいて作られた日本語コースブック『まるごと』と『いろどり』を用いた日本語教授法を習得し、無事修了しました。



『いろどり 生活の日本語』は、学習リソースが豊富な教材で、日本語学習者にとってわかりやすく、効果的な学習方法を提供しています。この教材は、基礎からモンゴル語で学ぶことができ、語彙や文法、日本での生活に関するアドバイスなどを母国語で読むことができるという大きな利点があります。そのため、初級および中級の学習者に特に適しています。

講座では、経験豊富な教師たちが短期間で十分な効果が上がるよう日本語とモンゴル語を用い、大切な知識と情報をわかりやすい順序で教えてくれました。私たち受講生は大変有益な授業を受講した後、各自が模擬授業の準備して実際に教えることにチャレンジしました。そして模擬授業に対する担当教師と他の受講生からフィードバックを受け、さらに学びを深めることができました。

今、私は、日本語を学びたいと頼まれたときに、『いろどり 生活の日本語』を使って授業計画を立て、自信を持って教えることができるようになりました。このような効果的な講座を提供してくださった先生方に心から感謝しています。

2024 年秋期「日本語教育講座」N.オヤンガ

セミナー参加者の感想

『いろどり』教授法セミナーは、日本での生活・就労を目指している人たちに日本語を教えている教師にとって、日々直面している数多くの問題を解決するためのスキルを身につけられる効果的な研修でした。

日本での生活・就労を目指す人にとって、日本で生活する際に直面する様々な場面において、自分の言いたいことをある程度表現できる日本語能力が必要になります。

『いろどり 生活の日本語』（以下、『いろどり』）は、学習者のこの必要性に十分応える内容であり、その点がとても気に入りました。

一方、教師にとって『いろどり』は、教師の業務を楽にしてくれる教材でした。授業の教案や準備などはとても時間がかかる作業ですが、『いろどり』は授業の流

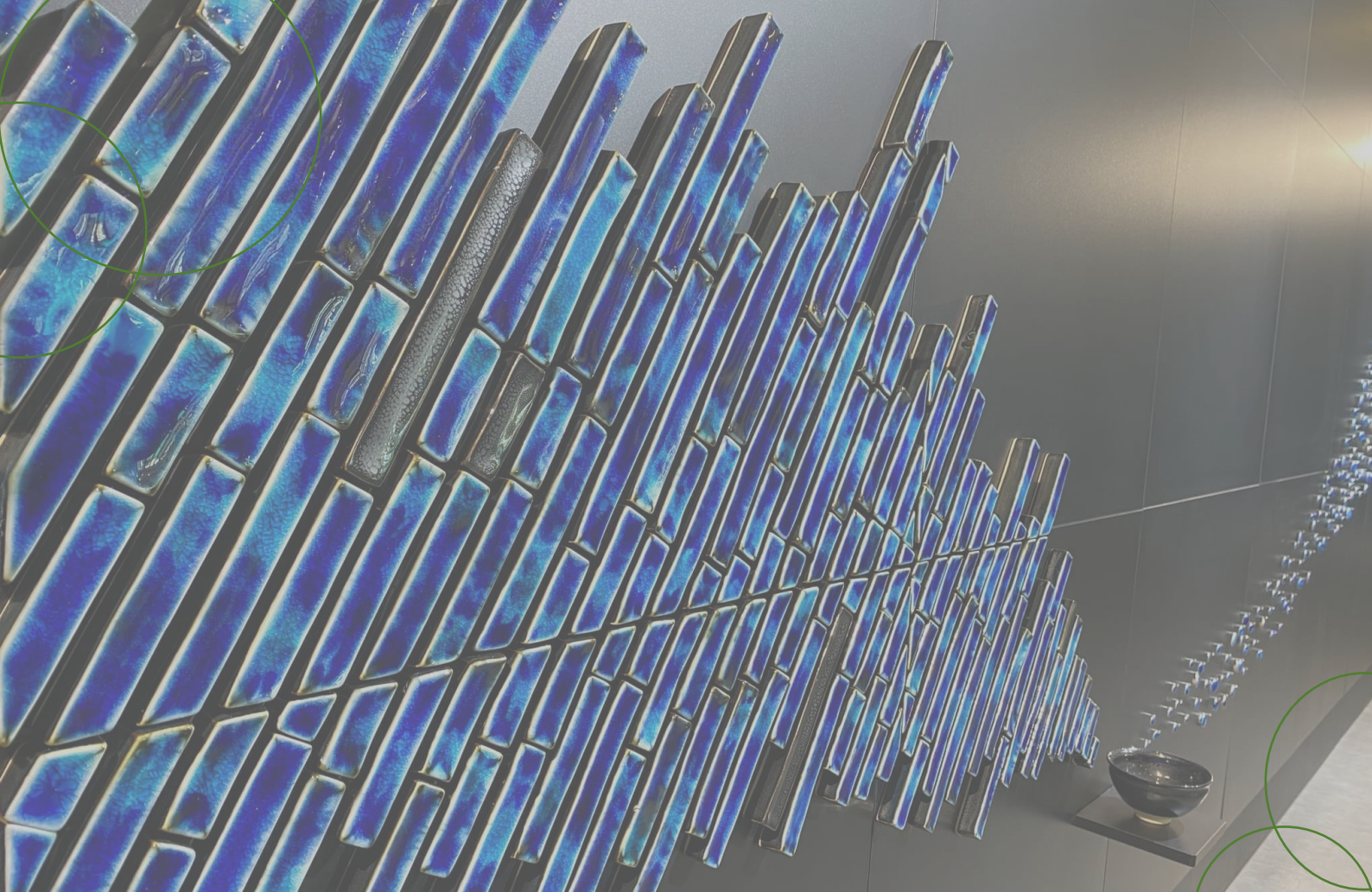


写真 32. 2024 年『いろどり』教授法
セミナー参加者 「せいかい日本語学
校」教師 D. モロルエルデネ



れや教え方がとてもわかりやすく構成され、授業に必要な教材がすべてオンライン上にアップされています。授業の教材作成などの時間が節約できるのは、教師にとって非常にありがたいと思いました。私は、日本での生活・就労を目指している人を対象に日本語を教えている先生方に、『いろどり』を使って授業を教えてみることを勧めたいです。私も自分のこれまでのやり方に加えて、『いろどり』の内容や教え方を自分の機関で取り入れていくつもりです。今後の学習者の更なる成果に期待するとともに、これからも学習者とともに頑張っていきたいと思います。

2024 年秋期『いろどり』教授法セミナー参加者
「せいかい日本語学校」教師 D. モロルエルデネ



IV. 圖書交流課





I. 2024 年図書交流課活動全般

モンゴル・日本人材開発センター（以下「モンゴル・日本センター」）の図書・交流課は、モンゴル・日本両国の相互理解を深める目的で、図書室の運営ならびに「市民講座」、「定期映画会」、「JF 文化日本語講座」、日本留学を希望する学生・生徒を対象とした「日本留学フェア」を開催し、博報堂教育財団の「日本語交流プログラム」も実施している。

当課はコンピューターコースも担当しており、2024 年には「総合コース」および「タイピングコース」を対面とオンラインで計 23 回実施した。

1. 図書室運営

2024 年 12 月末時点で、図書室利用者登録数は 29,638 名であり、年間の図書室利用者数は延べ 5,777 名である。

図書室の蔵書数は約 11,000 冊にのぼる。また、日本の大学・日本語学校の案内、留学に関する資料は 100 校分を超えている。2024 年は新たに約 142 冊の蔵書が加わった。センター図書室にこれまでに図書を寄贈してくださった個人、団体、出版社の皆様には感謝の意を表したい。

2024 年はイラストコンテスト、市民講座、アニメ上映会など、若者に大人気のアニメや漫画に関するさまざまなイベントを開催した。（詳細は「コラム」を参照）。

2024 年末、年間で最も多くセンター図書室を訪れ、また借りた本を自宅で読むなど図書室を一番利用した読者として、T.バーサンジャブ氏を選出し、賞品を贈呈した。

図書室の運営のほか、日本文化の普及を目的に、日本の民族衣装である浴衣や着物のレンタルサービスも行っている。2024 年は 100 を超える個人・団体に対して、300 着以上の衣類やアクセサリーを貸し出した。

図書室内の掲示板では、利用者向けに様々な情報を紹介している。在モンゴル日本国大使館が実施する国費留学試験、モンゴル日本語教師会が実施する JASSO の私費留学試験（EJU）と国際交流基金の日本語能力試験（JLPT）など、日本語学習者にとって重要な試験情報を提供している。



2.「定期映画会」日本映画上映

若者に最も人気のあるジャンルはアニメであろう。毎年恒例の文化イベントのひとつである定期映画会では、2024 年 11 月 25 日、27 日、29 日の 3 日間、日本大使館のご協力のもと、『君の名は。』、『天気の子』、『えんとつ町のプペル』の 3 本の有名な作品を上映した。来場者は合計で 131 人である。

3.「市民講座」

市民講座はセンター開設以来、定期的に行われてきた。2024 年で 84 回目となる市民講座は、アニメーション・漫画の創作に興味のある方を対象に「日本におけるアニメーション産業の発展」というテーマで実施した。（詳細は「コラム」を参照）。

4.日本留学フェア-2024

日本留学フェアは、日本留学に興味のある人のために、毎年秋に開催してきた恒例のイベントである。15 回目となる 2024 年は「留学フェア」を初めて、春と秋の 2 回開催した。春の留学フェアはオンライン参加のみの 1 日限りのイベントであった。秋の留学フェアは参加大学の担当者が来訪し、情報を提供する 2 日間のイベントとなった。また、昨年同様、資料参加も行った。

2 日間の秋の留学フェアでは参加者に計 11 大学・機関のパンフレットやチラシを配布した。そのほか、特設ウェブサイト www.edujapan.mn でも大学情報を公開している。また、参加大学のパンフレット、チラシなどは、モンゴル・日本センターのロビーと図書室の配布資料コーナーにも並べて来館者に提供している。

2025 年の「日本留学フェア」も、2025 年 4 月の「春の留学フェア」と 10 月の「日本留学フェア-2025」の 2 回開催する予定である。

5.受託事業

毎年恒例の博報堂教育財団「日本語交流プログラム」が今年も盛況に終了した。第 14 回プログラムに採用されたエレデミーン・ウンダラー統合学校（第 54 番一貫学校）の日本語教師 T.エンフプレブ氏が、海外教師日本研修に参加した。その後、生徒・教師が共に参加する日本語交流プログラムも無事に終了した。



また、第 15 回プログラムがスタートし、新モンゴル小中高一貫学校の日本語教師 V. トゥブシンジャルガル氏が選抜され、2024 年 11 月の海外教師日本研修に無事参加し、2025 年 5 月に生徒と共に日本語交流プログラムに参加する準備を進めている。

上記受託事業のほか、京都先端科学大学、新潟県立大学、東京経済大学などとの連携による受託授業も実施した。また、日本学生支援機構（JASSO）や株式会社サンコートレーディングの翻訳業務を行った。



表-18: 市民講座

No	タイトル	講演者	実施日	場所	参加者数
1	No.84. 「日本におけるアニメーション産業の発展」	NGO 法人モンゴルアニメーション協会のCEO E.タミル	2024.11.30	多目的室	59
合計					59

表-19: 定期映画会

No	映画名	実施日	場所	参加者数
1	1.君の名は 2.天気の子 3.えんとつ町のプペル	2024.11.25、27、29	多目的室	131
合計				131

表-20: 受託事業

No	事業名	実施日	対象者	場所	参加者数
1	博報堂教育財団「日本語交流プログラム」	2024.5.11	中等教育機関 日本語教師	日本、東京	6
2	新潟県立大学交流セミナー	2024.3.19	新潟県立大学、 モンゴル国立大学、 モンゴル科学技術大学の学生たち	多目的室	32
3	JICA と HIS Mongolia のプロジェクトのアンケート調査	2024.6		オンライン	120
4	「Saikou Day」イベント	2024.6		多目的室	200
5	Kaneko「そこにあるもの」展示会	2024.8.16-19	Kaneko Haruhiko Kaneko Masayo	ボグドハーン宮殿博物館	786
6	JASSO “Study in Japan 基本ガイド 2024-2025” モンゴル語版作成作業	2024.9.10	JASSO	Impress Colour LLC	1



7	東京経済大学の受託事業 「民族衣装紹介」	2024.9	東京経済大学	多目的室	35
8	京都先端科学大学の受託事業	2024.10	京都先端科学大学	ウランバートルでの 学校訪問	300
合計					1480

表-21 :JF 文化日本語講座

No	講座名	実施日	対象者	場所	参加者数
1	お正月	2024.1.13	学生・生徒	204、205 号室	23
2	ひな祭り	2024.3.2 2024.3.9	生徒	多目的室	51
3	子供の日	2024.5.4	生徒	204、205 号室	23
4	月見	2024.9.7	市民		13
合計					110

表-22: 図書室利用者数

	2024												
月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
利用者数	248	387	586	768	702	503	153	385	528	626	522	347	5755

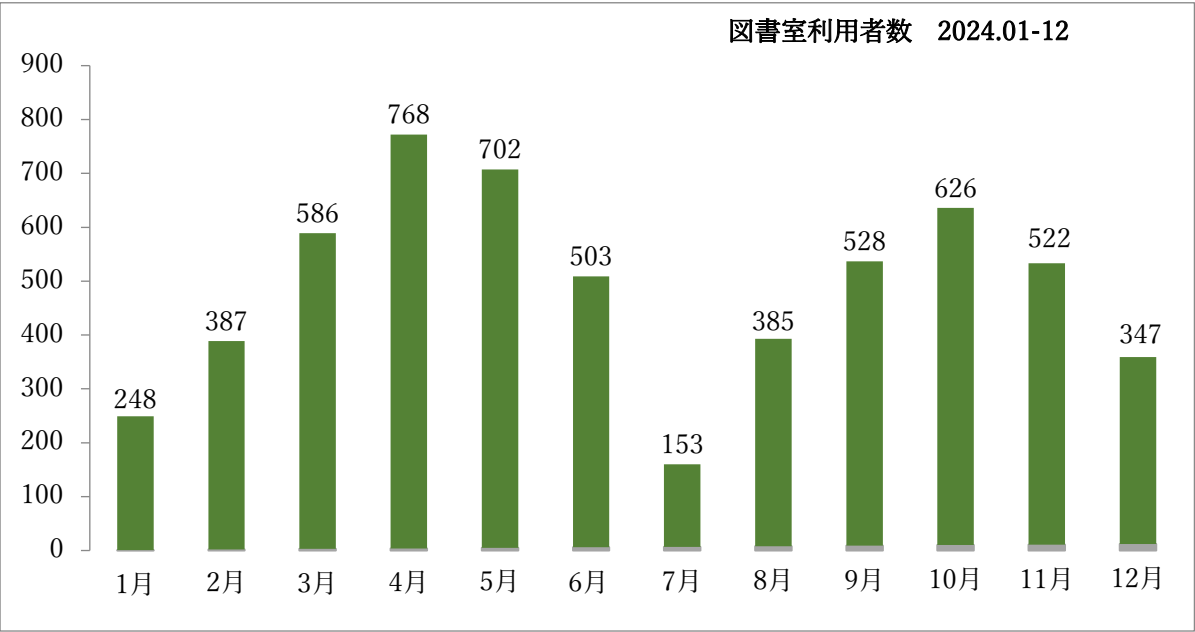




表-23: 読書会

No.	タイトル	講演者	実施日	場所	参加者数
1	町田そのこ「52 ヘルツのクジラたち」	E.トドロル U.ナラン	2024 年 3 月 30 日	多目的室	多目的室
合計					21

表-24: 日本文化紹介事業

No	タイトル	実施日	場所	参加者数
1	アニメ文化紹介日	2024.5.18	多目的室	87
合計				87

表-25: タイピングコース

No	コース名	期間	回数	内容	講師名	参加者数
1	ハイブリッド タイピングコース	2024 年 1 月～12 月	16 回	「MonTT」タイピングプログラムを利用し、タッチタイピングのための演習をする。	T.ボロルマー	323
合計						323

出典：モンゴル・日本センター図書交流課月次報告



II. コラム

1) 「春の留学フェア」初開催



写真34. 春の留学フェア-ポスター

モンゴル・日本センターは、モンゴルの将来を担う若者たちが質の高い教育を受けられるよう支援するため、毎年 10 月に「日本留学フェア」を実施してきた。毎年日本の 10～16 大学の代表者がモンゴルに来訪し、大学の紹介と個別相談を行っている。当フェアでは、学習や大学生活などの日本留学に関するすべての情報を得ることができる。

2024 年は初の試みとして、進路をまだ決めていない 10～12 年生と学生向けに、日本留学に関する情報提供と留学準備のサポートのため、

4 月 20 日（土）、春の留学フェアを開催した。今回の春の留学フェアには、オンラインで京都先端科学大学、立命館アジア太平洋大学が、対面で在モンゴル日本国大使館、帰国留学生の JUGAMO 会、モンゴル日本語教師会がそれぞれ参加した。会場には日本留学を希望する 500 名以上の若者が来場した。

今回の春の留学フェアでは、国費留学制度の説明（在モンゴル日本国大使館）、日本留学の概要説明（モンゴル・日本センター）、帰国留学生体験談（JUGAMO）、大学紹介プレゼンテーション（参加大学）、ブースでの個別相談（参加大学・機関）を実施し、来場者が必要な情報を得る機会を提供した。



写真35. 大学紹介プレゼンテーション

多くの来場者が各大学のブースに詰めかけ、希望する学科・専攻や奨学金制度について質問していた。今回はウランバートル以外の地方の若者に向けて講演のライブ発信もあわせて実施した。



また、帰国留学生の JUGAMO 会による「日本で学んだ経験」をテーマにしたトークイベントを行った。当イベントでは国費・私費、日本語・英語の各プログラムで日本に留学し、それぞれの分野で修士号や博士号を取得した帰国留学生が、日本で学んだ経験を披露し、参加者の質問に答えた。



写真36. オンラインによる個別相談

表-26. 「春の留学フェア」参加大学

 KYOTO UNIVERSITY of ADVANCED SCIENCE 京都先端科学大学	 Shape your world Ritsumeikan Asia Pacific University 立命館アジア太平洋大学
---	---

2) 第 15 回日本留学フェア開催

2024 年 10 月 5 日（土）・6 日（日）の 2 日間、モンゴル・日本センターにおいて「日本留学フェア-2024（以下「留学フェア」）」を開催した。第 15 回目となる今年の留学フェアでは日本より 10 の大学・1 機関が参加した（文末参照）。来場者は日本留学に関心のある若者を中心に 2 日間累計で 1,000 名に達した。

留学フェアの開会式では駐モンゴル特命全権大使井川原賢氏、JICA モンゴル事務所長宮城兼輔氏、モンゴル国立大学学長 B.オチルフヤグ氏、モンゴル・日本センター所長 Ts.ダワードルジにご挨拶をいただいた。今年のプログラムでは、国費留学制度（在モンゴル日本国大使館）、日本留学の概要（JASSO）、日本語能力試験 JLPT・日本留学試験 EJU（モンゴル日本語教師会）、帰国留学生体験談（帰国留学生の JUGAMO 会）、大学紹介プレゼンテーション（参加大学・機関）、ブースでの個別相談（参加大学・機関）などの日本留学に関するすべての情報を提供した。多



くの来場者が各大学のブースに詰めかけ、希望する学科・専攻や奨学金制度について質問していた。



写真37. ブースでの個別相談

留学フェア 2 日目となる 10 月 6 日（日）には日本帰国留学生の JUGAMO 会が「日本で学んだ経験」をテーマとする「Talkio（帰国留学生トークイベント）」を行った。当イベントでは来場者が最も興味を持っている学科・専攻で日本に留学した若者達が、日本で学んだ経験を披露し、参加者の質問に回答した。

英語で学べる日本の大学の数が最近増加していることは、主催側として非常に喜ばしいことであり、モンゴル人の若者により多くの機会が開かれることを期待している。

2025 年の留学フェアにもより多くの大学・教育機関にご参加いただき、日本留学の志を持つモンゴルの若者に必要な情報を提供して下さることを願っている。

主催: モンゴル・日本人材開発センター

協力: モンゴル国立大学、帰国留学生の JUGAMO 会、モンゴル日本語教師会

後援: 在モンゴル日本国大使館、国際協力機構 (JICA)、日本学生支援機構 (JASSO)、

対面参加大学: 京都先端科学大学、国際大学、慶應義塾大学、東京国際大学、

中央学院大学、名古屋商科大学、新潟県立大学、兵庫県立大学

資料参加大学: 名古屋大学、山形大学



表 27. 「日本留学フェア-2024」 参加大学

 慶應義塾大学 Keio University Tokyo, Japan 慶應義塾大学	 京都先端科学大学 KYOTO UNIVERSITY OF ADVANCED SCIENCE 京都先端科学大学	 名古屋商科大学 NUCB Undergraduate School 名古屋商科大学	 新潟県立大学 UNIVERSITY OF NIIGATA PREFECTURE 新潟県立大学	 国際大学 INTERNATIONAL UNIVERSITY OF JAPAN Where the World Cooperates 国際大学
 東京国際大学 TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY 東京国際大学	 兵庫県立大学 UNIVERSITY OF HIROSHIMA 兵庫県立大学	 中央学院大学 CGU 中央学院大学	 名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY 名古屋大学	 山形大学 Yamagata University 山形大学

3) 「そこにあるもの」セラミック作品展示会

日本内外で著名な陶芸家である金子晴彦氏と金子聖代氏の素晴らしい展覧会「KANEKO プロジェクトそこにあるもの ～The Unnoticed～」を 2024 年 8 月 16 日から 19 日までボグドハーン宮殿博物館と協力して開催した。当展覧会は、毎年行われる「ジャパンフェスティバル in Mongolia」の一環として開催され、4 日間におよそ 800 名のモンゴル人と外国人が鑑賞した。



写真 38. 外国人の観客

金子氏は大自然の素晴らしい青い海を表現するため、沖縄の鉱石を粉碎して、ガラスでコーティングして高温焼成することで、マリンブルーやエメラルドグリーンなどの色を作り出している。同氏はこの洗練された技術を父親から受け継ぎ、それを発展・改良し続けている。1999 年、沖縄石垣島西部の美しい川平湾近くに自身の陶芸工房「石垣焼窯元」を設立。展覧会は妻の金子雅代氏がキュレーターを務めており、この芸術家夫婦は、従来のスタイルや手法にとらわれず、新しくユニークな作品を創り出すことを信条としている。



当展覧会について、金子氏によれば、「私たちの目に映る現実果たしてどれほど真実をとらえているのだろうか。見えている物だけが真実なのか？ 私たちの目に映る現実、果たしてどれほど真実を捉えているのでしょうか。日常の中で見過ごされ、忘れられている小さな瞬間や、存在しながらも見えていない事物、そして他者の目を通して見られる自分自身…。この展示会では、視覚と存在の狭間に潜む真実に迫ります。作品を通じて、自分の目に見えているものが本当の姿であるのか、見えていないものがどれほど豊かな意味を持つのかを再考していただければ幸いです。鏡に映る無限の空間や、覗き穴の向こうに広がる見知らぬ世界。これらの作品



写真 39. 「そこにあるもの」

は、皆様の日常に潜む美しさと不思議を再発見する手助けとなることでしょう。また、他者の目を通じて見える自分が、真の自分なのか、それとも新たな自分像を創り出すのか、その問いを皆様に投げかけます。本展示会が、皆様の感覚と意識を刺激し、新たな視点と気づきをもたらすことを願っております。見えていないものに目を向け、その存在を感じ取り、日常の中の無限の可能性を再発見して頂けると幸いです」

金子夫妻はこれまでもモンゴルを訪問している。日本モンゴル外交関係樹立 45 周年、モンゴル・日本センター設立 15 周年を記念するとともにモンゴルの陶芸発展のために寄贈された貴重な作品「ハッピーブルーウォール」は、今もモンゴル・日本センターのホールを飾り、独特の色彩を放ちながら、日本の青い海を表現している。

展覧会をご覧になれなかった方も当センターにお越しいただければ、有名な作品を自由に鑑賞できる。当センターの扉はいつでもどなたにも開かれています。



4) 第 84 回市民講座「日本におけるアニメーション産業の発展」

今年は、子どもや若者の間で常に関心高く、人気のある日本のアニメ、漫画をテーマにして各文化活動を実施した。その一つとして、市民講座では「モンゴルアニメーション協会 NGO」CEO であり、「ブンバルダイ、ハンドガイ」という漫画やアニメーションなどキャラクターベースの製品を制作する会社であるエコンテ社の共同創設者兼ジェネラルプロデューサーでもある E.タミル氏が講演した。



写真 40. 講演者の E.タミル氏

市民講座は 11 月の寒い冬の週末に開催されたが、テーマが非常に興味深く、専門分野のゲストも招待されていたため、多くの参加者が得られた情報に非常に満足していた。E.タミル氏はまずモンゴルのアニメーションの発展と方向性をビデオで紹介し、それをわかりやすく説明した。

そして、日本のアニメ業界について多くの例を挙げて、誰にでも分かりやすく説明してくれた。たとえば、日本では、アニメ業界の売上高に対する収益は主にテレビコンテンツによって牽引されているが、最も高い売上高を生み出しているのはいろいろなグッズ、子供向けの遊園地、国際貿易である。また、世界のアニメ市場では米国が 1 位、中国がそれに続き、日本が 3 位であるなど、さまざまな情報を与えてくれた。

プレゼンテーションが終了し、質疑応答の時間が始まると、参加者は非常に積極的になり、E.タミル氏にたくさんの質問をした。「自分が知りたかった、想像もしていなかった貴重な情報を知ることができ、今後の方向性を決めることができた」、「本当に嬉しく満足した」というコメントを残した方も少なくなかった。

E.タミル氏は、日本で漫画やアニメ画家になりたい、留学したいと言った若者たちに、日本の学校法人白萩学園の専門学校であるアニメ・アーティスト・アカデミーについての情報を提供し、日本でこの分野を本当に勉強しようと決心したのなら、仕事をしながらでも非常に忍耐強く、一生懸命に勉強する必要があると心から



アドバイスをしてくれた。また、「もっと詳しい情報を聞きたい」「絵コンテ会社で絵を描くインターンシップをすることはできますか」「どのように連絡を取ればよいですか」などの質問に非常に熱心に答え、若者たちを全面的にサポートすることを表明していた。

今後も、一般の方や若者の方々にとって有益な情報が満載の興味深い市民講座を開催していきたいので、ぜひご参加ください。

5.) JF「専門日本語研修（文化・学術専門家）2 カ月コース」参加

毎年、JF 公募プログラムの「専門日本語研修（文化・学術専門家）2 カ月コース」が実施されている。今回の研修ではモンゴル・日本センター図書・交流課の D.ムンフトヤが選ばれ、大阪の国際交流基金関西国際センターにおいて 2024 年 1 月 10 日～3 月 6 日に実施された研修に参加した。



写真 41. 発表会

当研修は特定の専門業務及び研究活動を円滑に遂行するために日本語能力を必要とする専門家（研究者、大学院、図書館司書、博物館・美術館学芸員）の日本語学習を支援することを目的としており、各専門業務の特色に配慮したカリキュラムにより、実用的な日本語能力を身に付けられる。

JF「専門日本語研修（文化・学術専門家）2 カ月コース」修了生 D.ムンフトヤの声:

今回は中国、ブラジル、スリランカ、マレーシア、インドネシア、モンゴルなど 6 カ国から 9 名の研修生が集まった。研修生は日本研究という共通の専門を持つが、日本と中国のシルクロードの歴史、漫画による日本語教育法、日本語の敬語、モンゴルと日本の医療用語など、それぞれ異なる分野に関心を持っていた。私は研修の専門テーマとして、「図書館の YA (Young Adult) 向けサービス」を選び研究した。このテーマを選んだのは当図書室の利用者であるティーンズ層の利用者数を増やし、



その年齢層に適したサービスを支援するためである。この研究を通じて、YA サービスを重視している日本の図書館を訪問し、専門家と相談し、当図書館でこのサービスを導入するための取り組みについて調査した。

研修期間中には、大阪の田尻町立公民館図書室、和歌山市民図書館、神戸大学図書館、日比谷図書文化館、武蔵野プレイス、東洋文庫ライブラリー・ミュージアム、さいたま市図書館、そして大阪ガスなど、合計7つの図書館、1機関を見学した。関西国際センターの図書館活動展示やイベントなどのサポートを通じて3回の図書館業務の実習も行った。研究活動を通じて、専門的な日本語の専門能力を高めるだけでなく、日本の文化にも触れる貴重な機会を得た。また、神戸大学の大学院生との交流を通じて、最新の課題「現在の日本が抱える問題」について議論を交わすことができた。

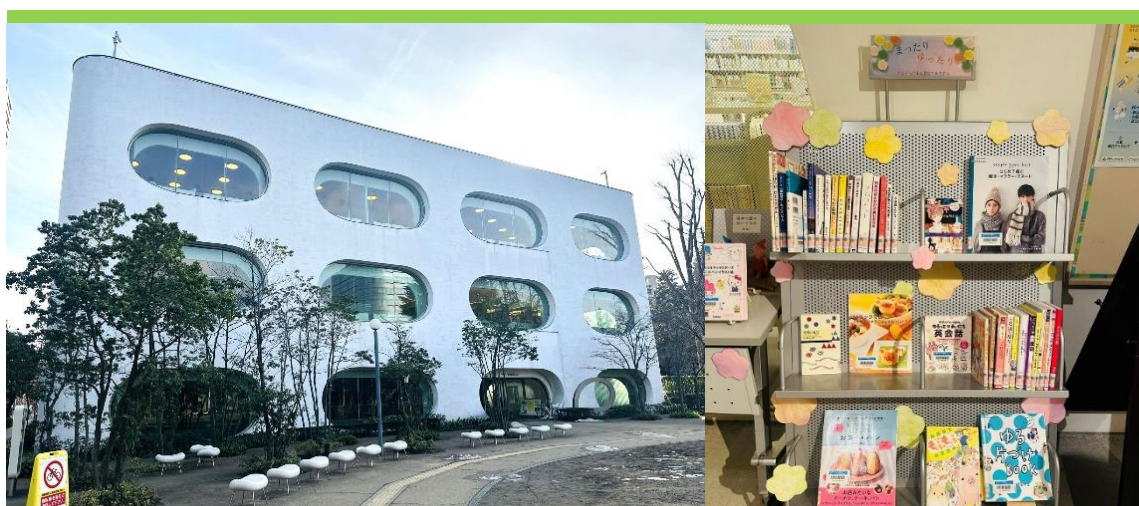


写真42. 武蔵野プレイスの図書館「YA 図書コーナー」

研修の後、短期間で実行可能な活動を図書課で実施し始めた。現在のところ、アニメや漫画に興味を持つ子どもたちや漫画家を目指して日本に留学を希望する若者たちに向けて、「アニメ文化紹介の日」、「アニメイラストコンテスト」、在モンゴル日本国大使館との共催による「定期映画会」、そしてモンゴルアニメーション協会のエグゼクティブディレクターである E.タミル氏を招いた「日本におけるアニメーション産業の発展」というテーマの公開セミナーをそれぞれ成功裏に開催した。今後も、子どもや若者向けに図書室をリフォームしたり、YA（ヤングアダルト）コーナーや日本語レベル別の多読本コーナーなどを図書室内に設置したりする予定



である。この研修は、日本に関する研究をしている誰もが参加できるコースであり、モンゴル人の研究者の方々は、このコースに参加すれば、きっと自分の研究活動が大いに広がるだろう。

6) アニメ文化紹介イベント

日本のアニメや漫画を愛する子どもや若者を対象に、5月18日に「アニメ文化紹介イベント」を成功裏に開催した。今回のイベントでは「アニメイラストコンテスト」を実施し、ウランバートル市や地方から約100名以上の子どもたちや若者が積極的に参加した。イラストコンテストに参加した子どもたちの中から優秀賞10名を選び、賞品を贈呈した。また、参加した全ての才能ある子どもたちの作品を



写真43. アニメイラストコンテストの展示



写真43. アニメクイズ大会

センターのロビーで展示し、10日間にわたり一般公開した。「アニメ文化紹介イベント」の目的は、日本アニメの歴史に関する正確な情報を子どもや若者に伝え、さらに、この年齢層のリクエストやニーズに沿ったイベントを実施することである。また、当センターや図書室の活動を紹介し、今後の当センターのコースやイベントへの参加を促進し、参加者の自己成長をサポートすることも目指した。このイベントには、アニメに関する多くのアクティビティが含まれている。具体的には、オンラインクイズアプリを使って実施した「アニメクイズ」と「アニソクイズ大会」、カフェ「Cafe de Lolita」との協力によるお菓子コーナーやメイドダンスのパフォーマンス、日本の遊びコーナーなどである。



加えて、浴衣をレンタルしてセンター周辺に咲いていた 5 月の美しい桜やモノスの木（実桜）の隣で写真撮影を楽しむことができ、友達や家族と共に楽しい一日を過ごし、アニメ文化について理解を深めることができた。



写真44. メイドダンスのパフォーマンス



V. 総務課





I. 2024 年総務課活動全般

総務課はモンゴル・日本センターの経理、人事、IT、公文書作成・管理、清掃、設備、警備というような基本業務の 2024 年度の達成率は 91%となった。

コロナ禍が収束して数年が経過したが、引き続き消毒、感染対策を徹底的に行った。また、センター内のリソースを活用して、センターの建物や施設の管理を確実に実行したことで職員及びお客様の安全かつ快適な環境を整えることができた。昨年度に続き、事業達成度が高く評価されたことは職員皆の努力、協力の結果である。

表 28 2024 年度に実施した修繕及びその他の作業

内容	実施期間	詳細
椅子、机の定期修繕	四半期ごと	73台の椅子、27台の机を修理
熱水器設置 Φ150	2024年6月	実施済み
淡水ブラケット	2024年6月	実施済み
熱量計の認証	2024年6月	実施済み
警備室内装	2024年1月	実施済み
分電盤の交換	2024年5月、9月	未実施
文房具の購入	四半期ごと	
ガレージ天井の修繕	2024年7月-9月	未実施
外国人インターン	2024年2月と4月	関西学院大学-2名 東北文化公益大学-4名
モンゴル国立大学の学生インターン	2024年10月と11月	モンゴル国立大学・アジア研究学科-4名
日本留学相談	一年中	68人
モンゴル語初級講座	2024年9月	参加者数: 7名

会場利用実績

表 29 主催機関

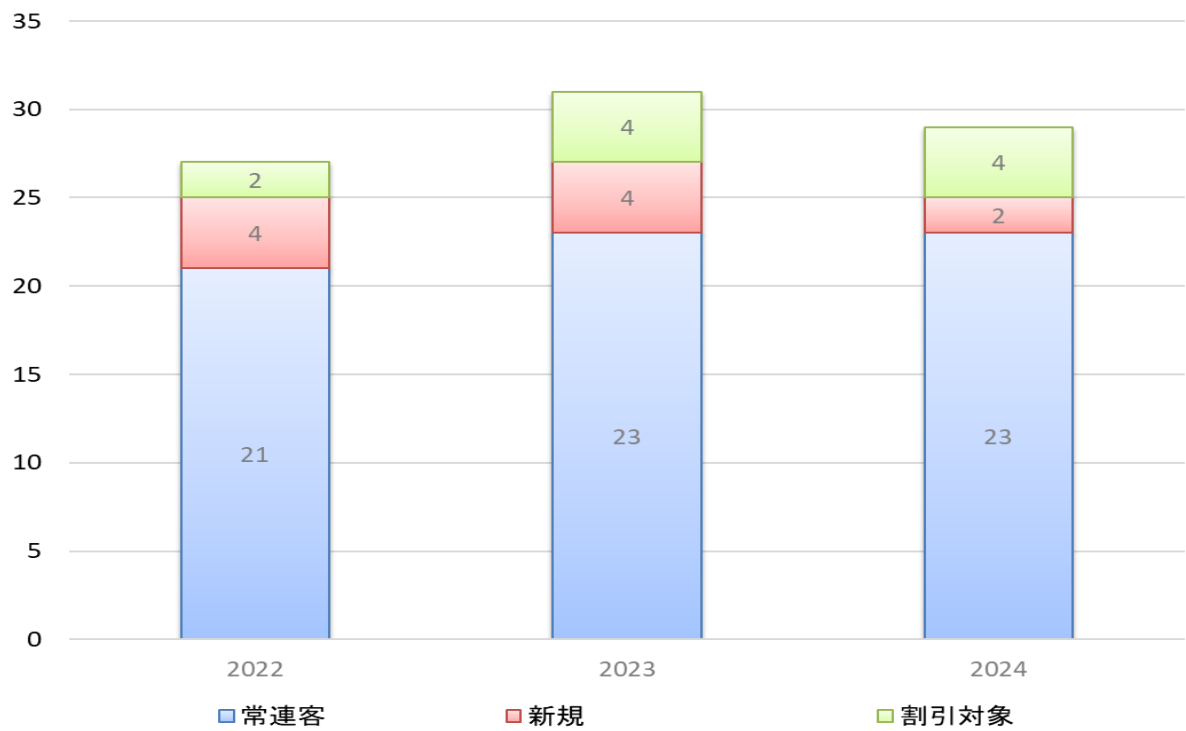
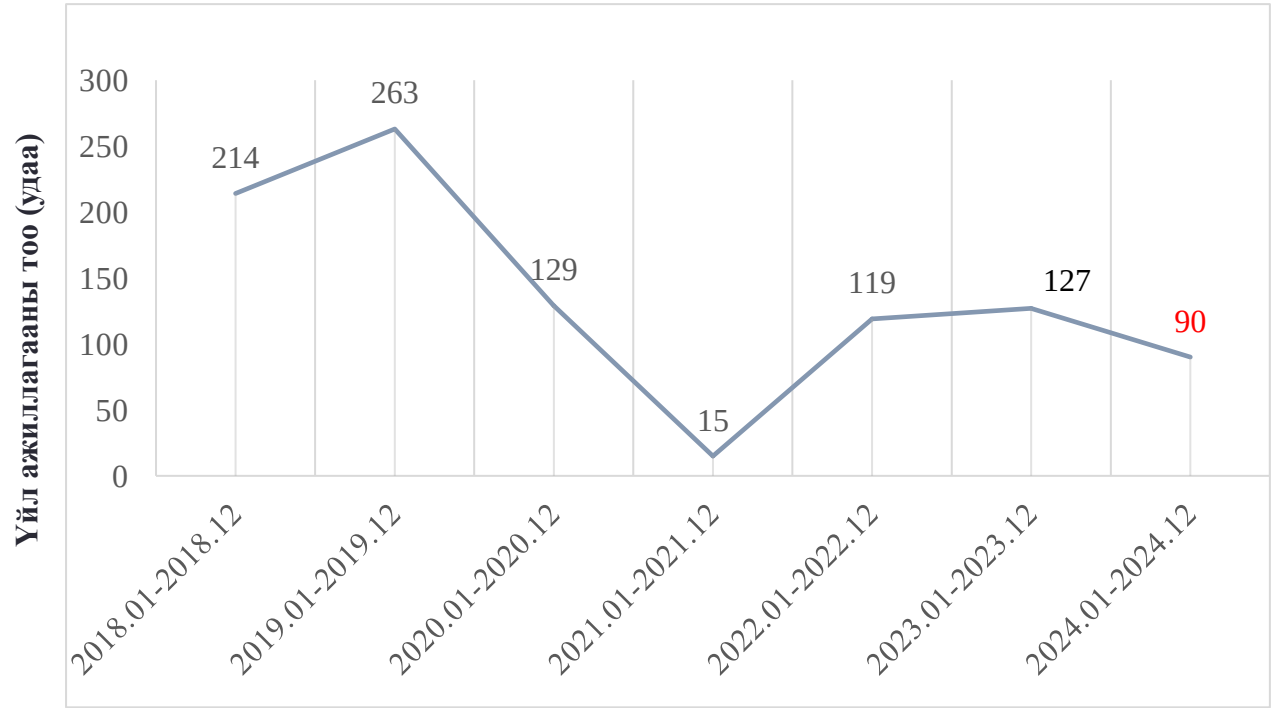
No	主催機関名	イベント実施数 (回)
1	在モンゴル日本国大使館	2
2	JICA	12
3	モンゴル国立大学	11
4	モンゴル日本語教師会	7



5	その他	58
合計		90

出典：モンゴル・日本センター総務課月次報告

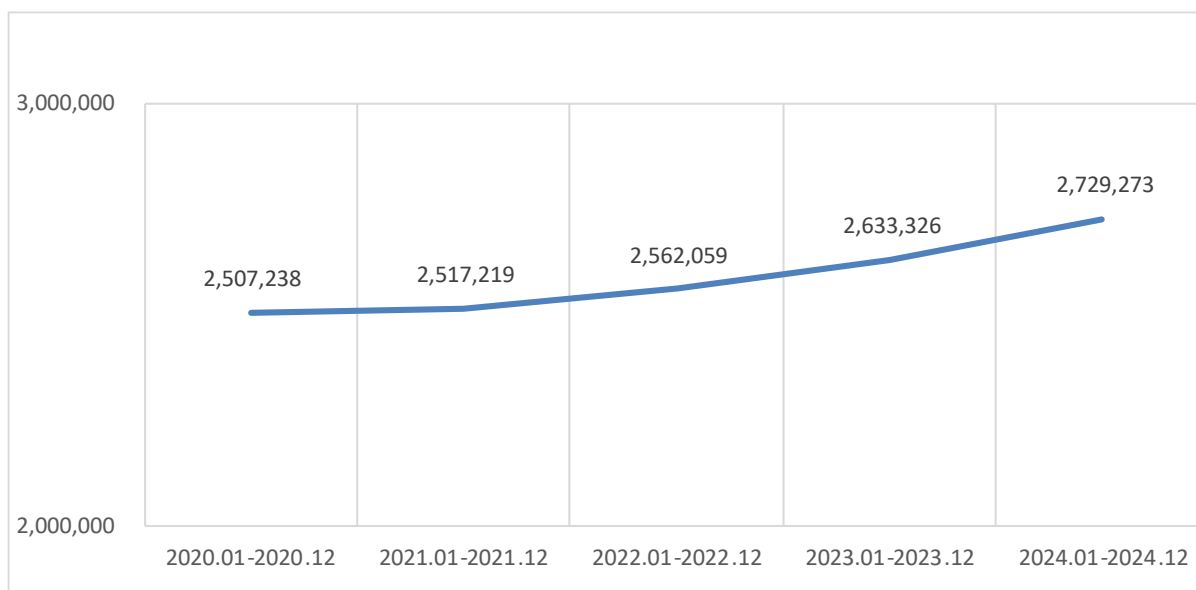
グラフ-3 過去 7 年間の施設利用実績



最近 5 年間のお客様数 2024 年 12 月 31 日まで：



合計 2,721,446 名（重複数）



上記の業務を JICA、JF やモンゴル国立大学の専門家らの指導や支援により実施することができた。なお施設利用実績指標からわかるように、今年度も施設利用件数がコロナ禍前の時期の水準に達してないが、ニーズはあるため今後は活動をますます強化していく。



II. コラム

1. 翻訳サービスを開始

お客様のニーズに応じながら日本語関係の業務経験を持つ職員の知識や技能に基づき、日本センターが提供すべきサービスとして 2024 年から翻訳サービスを正式に開始した。これはモンゴル翻訳者協会から正式な認可を得てサービスを行うもので、モンゴル・日本センターウェブサイトから閲覧、発注が可能である。

2. 初級モンゴル語講座

モンゴル在住の日本人向けに初級モンゴル語コースをめて実施した。今後もコースを継続していく予定であり、受講者の枠組を拡大し、モンゴルのみならず世界中のモンゴル語・文化に関心を持つ方々向けにオンラインでも実施する予定である。

この講座は日本人の皆様へモンゴル語・モンゴル文化を提供することによりモンゴルでの生活を少しでも支援したく実施している。受講されたい方はどなたでもご遠慮なくご連絡ください。



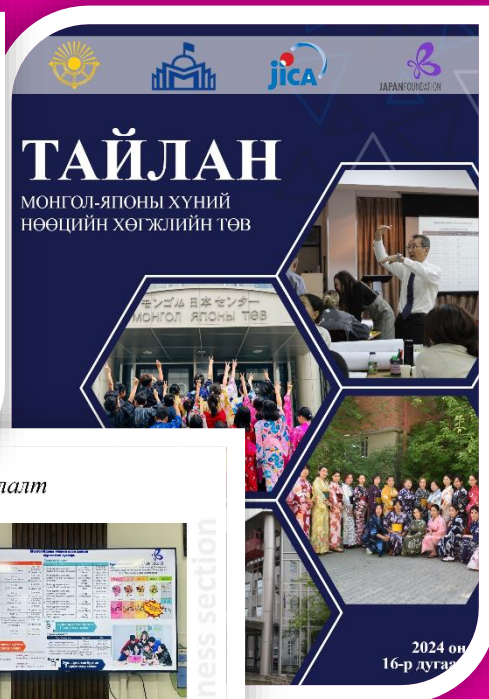
写真 45. 初級モンゴル語講座を始めて実施した

写真 46. 受講生達に卒業証明書を授与した





VI. チーム活動



Lobby TV ашиглалт

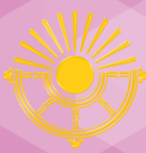


Lobby TV – ээр төвийн сургалтын зэрвээс гадна тухайн өдрийн үйл ажиллагааны танхимын хуваарийг харах боломжтой болсон.



Business section

2024 он
16-р дугаар



2024 年度の活動全般

モンゴル・日本人材開発センター（以下「モンゴル・日本センター」という）のスタッフは各課で担当している業務以外、センターの業務の改善と、スタッフの間交流の促進のため、さらには個人の能力向上を兼ねて、いくつかのチームに分かれて業務をしている。2024 年は全スタッフが「広報チーム」、「5S 改善チーム」、「健康・スポーツチーム」、「単独イベントチーム」、「互助会チーム」の 5 つのチームで活動した。

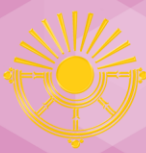
チーム活動によって、チームワークが高まり、他課のスタッフとの関係もよくなり、新しい改善案が出たり、自己成長にも繋がっている。

1. 広報チーム

広報チームはモンゴル・日本センターをより多くの人に知ってもらうため、センターで実施されている各種コースや事業イベントに関する情報の発信とセンターやモンゴルに関する情報の提供を目的とし、2016 年に結成され、2024 年は、6 名のメンバーで活動した。

2024 年の活動概要：

No	日付	活動内容	説明
1	2024 年 3 月	モンゴル・日本 センターの年報 作成	年報（事業報告書）を作成している。2024 年は年報作成を開始して 16 回目になり、年報をデジタル化し、オンラインで公開した。
2	2024 年	モンゴル・日本 センターの事業 広報用のポスター 作製	センターの事業広報のための 200 以上のポスターと 20 以上のバナー、スタンドをスタッフたちが作成した。その結果、4,000,000¥ のコスト削減し、7,000,000¥ の収益を得た。
3	2024 年	ソーシャルマー ケティング	フェイスブックのフォロー数が 15% 増え、73,000 名となり、インスタグラムを積極的に活用し、フォロー数が 1,500 になった。約 4,200 のチャットに対応し、フェイスブックページやグループに対する 10 回のハッカー攻撃を防ぐことができた。



4	2024 年	チームメンバー	新しいメンバーはチーム活動を完全に理解できないので、前のメンバーがもう 1 年残り、アドバイスをしながら一緒に協力して活動した。
---	--------	---------	--

2. 5S 改善チーム

モンゴル・日本センターは 2016 年から 5S 改善チーム活動を継続してきた。職員が自主的に作った 5S 改善チームは、センター内の整理・整頓、清潔、躰、衛生面のことからはじまり、改善が必要な何事にも対して、職員の提案した改善案を集め、その実施に積極的に取り組んでいる。

5S 改善運動の主な目的は無駄（非効率な行動や操作）を排除し、収益性と生産性を向上させることである。2024 年の 5S 改善チームはこの点により注目し、より具体的なことを提案・企画し成功裏に実施できた。その一つは廃棄された物を販売することであり、これによりチーム予算をある程度確保することができた。この予算を用いて、最良の改善案を出した職員と実施に積極的に参加した職員それぞれを表彰し、奨励した。職員のさらなる熱意とモチベーションをあげることができたと思われる。

ҮНЭЛГЭЭ

ЧИМЭЭГҮЙ КАЙЗЭНЧИН

ШАЛГУУР: БОДИТООР ХЭРЭГЖҮҮЛЭГЧ



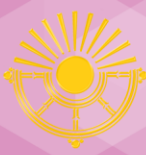
Power automate, Sharepoint холбох гарын авлага
Кiosk дээр апп хийсэн...

47. 静かな改善者

2024 年のチーム活動では、センターの内部でよい雰囲気を作り、一つの目標に向かって一緒に努力することに重点を置いた「ワークショップ」活動を 3 回計画・実施した。

目的:

「5S 改善活動を継続的に実施し、具体的な実施に注力する」



計画:

1. 「改善案」キャンペーン「静かな改善者」を選出する
2. 全員参加の「ワークショップ」ミーティングを定期的を開催する
3. パトロール活動を広範囲に実施する

改善案を提案する機会を増やすことを目的としたパトロールを実施し、その結果 2、7 件の改善案があり、センターの整理、清潔さを維持・向上させた。

4. 「予算を確保する」事業



職員が提案した改善案に基づいて実施した具体的な活動:

- 利用者の意見箱を設置した。
- レンタル傘コーナーを設置した。
- 北側の入口に職員靴箱を設置した。
- ロビーのテレビで施設利用情報を表示するようにした。
- Microsoft Office 365 の効果的な利用方法について、一部の職員が経験を共有し、その結果データを整理した。





3. 健康・スポーツチーム

目的:

センター内スポーツの浸透を通じて職員間のコミュニケーションを改善し、健康的なライフスタイルを取り入れること。

2024 年の活動概要:

No	日付	活動内容	場所	備考
1	1 月～12 月 8:55～	朝の体操	ロビー	毎週月曜、水曜、金曜ラジオ体操、火曜と木曜に国立大学のオフィス用体操を全職員で実施。
2	4 月、6 月	職員健康診断	Biobase ラボラトリーと 国立がんセンター	全職員が完全ながん・ミネラル検査を受けた。
3	3 月、11 月	薬やその他の用品の 補給	-	必要な薬やその他の用品を購入した
4	4 月	セミナー	205 号室	ストレスと燃え尽き症候群に関するセミナー
5	11 月	診断、アドバイス	多目的室	日本の伝統的な骨盤 マッサージ
6	1 月	国立大学講師、従業員 スポーツ大会	国立大学体育館	国立大学講師、職員スポーツ大会に参加し、第 2 位入賞。